

最盛期の生野鉱業所本部(昭和30年頃)



JAPAN HERITAGE

日本遺産

鉱石の道

近代化産業遺産エリア

兵庫県但馬地域【養父市・朝来市】

KOUSEKI NO MICHİ GUIDEBOOK

日本を支えた鉱山遺産 明延鉱山・神子畑鉱山・生野鉱山・中瀬鉱山

あけのべ 明延鉱山・神子畑鉱山・生野鉱山・中瀬鉱山

日本近代化の 原点はここにあった

但馬は宝の山 その昔、天下人が欲しがった宝の山
日本初の官営鉱山 東洋一の選鉱場 日本一の錫鉱山 日本一大きな自然金を産出した鉱山



近代化産業遺産
平成19年度 経済産業省



鉱石の道
産・業・遺・産

マンガで見る鉱石の道!

よく気がついたね!
それは
カラミ石って
いうんだよ!



そういえば
これって
何だろ...
町中で見たことある...

待って
ました!



ボクんちで
ゲームはどう?
あれ?

このあと
何して
遊ぶ?

今日も学校
楽しかったね!



さあ!
鉱石の道を
発見する旅へ
出発しよう!

わあ!
浮いた!



見たことある

カラミ石は鉱山の
廃棄物をリサイクル
したものなんだ
家の土台や塀、水路とかで
使われているんだよ!

2人とも朝来市
生野町が鉱山の町
だったことは
知ってるよね?

うん!
学校でも
勉強
したよ



はじめまして!
ボクは鉱石の道
案内人の鉱助くんだよ!
よろしくね!



もっと町のことが
知りたくなっ
ちゃった!

このハヤシ
ライスはも
鉱山の文化
を復活させた
ものなんだね



運賃が1円
だったので
一円電車と
呼ばれていたんだ

月に一回体験乗車を
してるよね!
ボク乗ったことあるよ



ここは養父市の
「明延鉱山」!
昭和62年までは
ここでスズが
とれていたんだよ!



うまうま
大盛り!!

この4鉱山のエリアは
鉱石の道と呼ばれていて
周辺にはたくさん
産業遺産が
残っているんだ
身近にある遺産を
みんなに知ってもらおうと
観光や体験施設として
活用する取り組みが
行われているんだよ



朝来市の神子畑選鉱場は
明延から運ばれてきた
鉱石を選鉱していた施設!
東洋一の規模といわれたんだよ
さらにここから生野鉱山へ
運ばれたんだ



なんか
かっこいい



みんなも
調べてみよう!

町の歴史について
おじいちゃんや
おばあちゃんにいろいろ
聞いてみよう



スーパーや百貨店
映画館などなど...
モダンで
ハイカラなものが
たくさんあふれて
いたんだよ

何千人もの人が
暮らしていたのね

中瀬・明延・神子畑
生野の4鉱山は
日本の近代化を
支えた貴重な
産業遺産なんだ



近代化産業遺産 平成19年度 経済産業省



～ はじめに ～

兵庫県北部の但馬地域は、古くより全国有数の鉱山エリアとして発展し、様々な伝統や文化が地域固有の歴史として育まれてきました。本誌で紹介する養父市、朝来市にまたがる明延・神子畑・生野の三鉱山のエリアは、日本の歴史に深く関わりながら発展し、特に明治以降は西洋の鉱山技術を取り入れた近代化鉱山の第一号として日本の近代化を牽引してきました。

これらの3つの鉱山のエリアは平成16年に「鉱石の道」と命名され、平成19年には経済産業省の近代化産業遺産群に、さらに平成29年に中瀬鉱山が加わって日本遺産に認定されました。この「鉱石の道」エリアは、今も残る鉱山遺産とともに鉱山町の景観、歴史、生活、文化など様々な地域の姿を通じて、日本の鉱山史を丸ごと体感できる貴重なエリアです。

この「鉱石の道」ガイドブックが、私たちの住む但馬地域の誇りや可能性をあらためて発見し、発信するきっかけとなることを願っています。



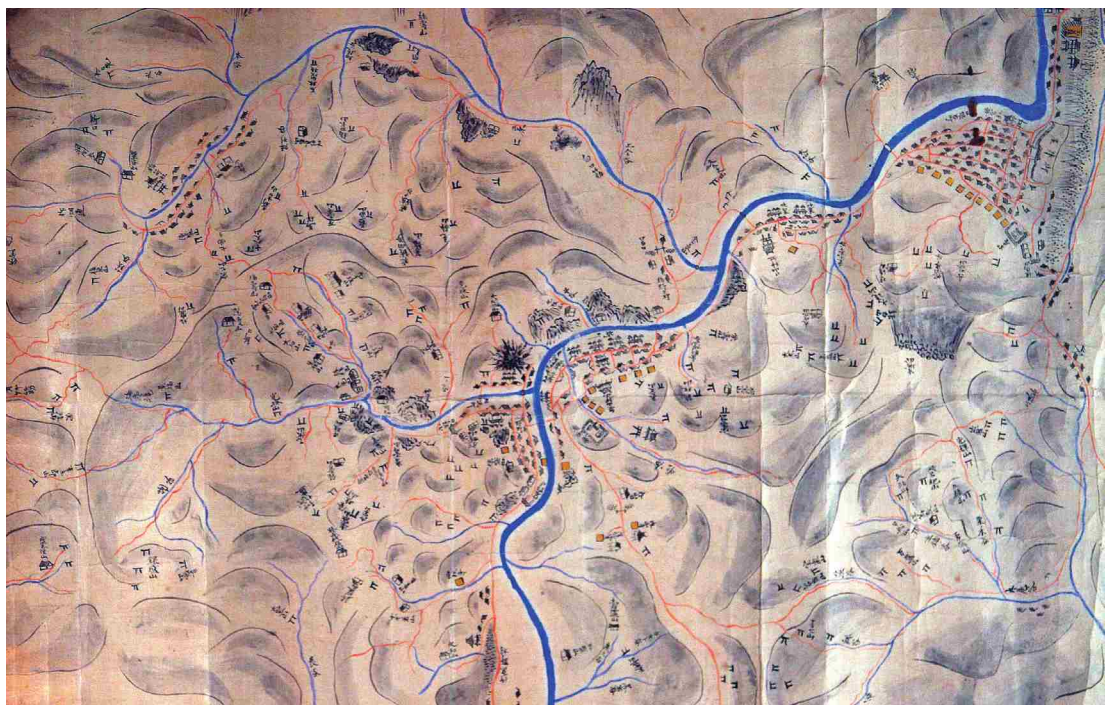
目次 INDEX



マンガでみる「鉱石の道」	1
第一章 但馬はかねほる里だった。	3
第二章 日本近代化鉱山の原点 鉱石の道をたどる。	7
第三章 明延鉱山	11
明延散策マップ	13
第四章 神子畑鉱山	15
神子畑散策マップ	17
第五章 生野鉱山	19
生野散策マップ	21
第六章 中瀬鉱山	23
中瀬散策マップ	25
第七章 鉱山の暮らしと文化・鉱石の道ゆかりの人物	27
第八章 これからの鉱石の道	30
アクセスマップ・関連イベント情報・問い合わせ一覧	31

【参考・引用文献】

『会社の概要(明延鉱業株式会社)』『明延鉱山 かくありき そのヤマと人々(明延鉱業株式会社・明延鉱山労働組合)』『大屋町史民俗編(大屋町)』『写真と傳承でつづる ふるさと あけのべ(あけのべ・ふるさとづくりの会)』『一円電車と明延鉱山(岡本憲之/神戸新聞総合出版センター)』『明延鉱山探検坑道パンフレット(「鉱石の道」明延実行委員会)』『生野史(生野町役場)』『生野銀山町物語(生野町中央公民館)』『明治以降の生野鉱山史(生野町中央公民館)』『生野銀山(生野町中央公民館)』『いくの(生野町中央公民館)』『生野銀山まるごと情報誌 いぶし銀(口銀谷の町並みをつくる会)』『史跡生野銀山パンフレット(株式会社シルバー生野)』『生野鉱山 近代化産業遺産パンフレット(朝来市教育委員会)』『ごっつい〜 奥銀谷お宝マップ(奥銀谷地域自治協議会)』『但馬の情報誌 T2(公益財団法人但馬ふるさとづくり協会)』
その他、養父市・朝来市発行パンフレット



第一章

(左) 江戸時代の露天掘り跡(史跡生野銀山・慶寿ひ)／(右) 生野銀山周辺の間歩(坑道)などを記した江戸時代の古地図

EPI
SODE

但馬はかねほる里だった。

日本を代表する鉱山王国

大同2年(807)に開坑したといわれ、1200年の歴史を誇る日本有数の銀山である生野銀山。産出した銅が奈良の大仏铸造(752年建立)にも使われたとされる明延鉱山など、兵庫県北部の但馬地域には、日本の歴史上において重要な鉱山が点在しています。

これらの鉱山は時の権力者の財力となり、江戸時代には佐渡金山(新潟県)、石見銀山(島根県)とともに幕府の財政を支えました。江戸幕府は生野、佐渡、石見に奉行所を置いて、鉱山開発に力を入れました。

『桜もちるに嘆き…ここに但馬の国かねほる里の辺に…』これは江戸時代の浮世草子作者・井原西鶴の作品である『好色二代男』の冒頭の二節です。「かねほる里」とは生野銀山のことであり、主人公の夢介は生野の富豪として描かれています。

また、当時、金(小判)は主に日本で使用され、銀(丁銀)は西日本で使われていました。これは東の佐渡金山と西の生野、石見銀山の影響でした。江戸時代前半、日本で産出された銀は世界の3分の1を占めたといわれています。

天下人の宝物

但馬の金と銀

■但馬守護・山名氏による支配

生野に伝わる『銀山旧記』によると、天文11年(1542)に銀鉱脈を発見したことを契機に、但馬守護・山名祐豊が、当時の最新技術を用いて本格的に採掘を始めたと記されています。

それに先立つ天文2年には、石見銀山に銀を取り出す「灰吹法」が伝えられています。

弘治2年(1556)には竹田城主・太田垣朝延が、山名祐豊から生野銀山の支配権を奪い取り、その後、山名氏と太田垣氏は銀山の支配権を巡って度々対立しました。

■織田信長

織田信長は永禄11年(1568)、京都で将軍に足利義昭を擁立。さらに翌年には、木下(豊臣)秀吉に



生野で最高位の坑道に、生野奉行所から「御所務山」の名称が与えられ、これを祝して「御見石」の山車が引き回されるようになった。

但馬の主要な金属鉱山マップ（昭和時代）



兵庫県北部・但馬地域には
この他にも137以上の鉱山
が確認されています。

主要產出鈹物

- 自然金 ●自然銀 ●自然銅 ●自然砒(ひ)
▲輝銀鉱 ▲輝安鉱 ▲濃紅銀鉱 ▲黄銅鉱 ▲方鉛鉱
■閃亜鉛鉱 ■閃マンガン鉱
◆錫石 ◆滑石 ◆方解石 ◆中沸石



COLUMN

養父の特産 朝倉山椒

豊田秀吉から任命された生野鉾山の奉行・伊藤石見守は、生野にある昔の侍町の跡に山椒を植えました。その後、山椒の木は大きくなりました。慶長16年(1611)、生野奉行の間宮直元は、この山椒の木から実をとって、徳川家康に献上しました。これが江戸幕府に「朝倉山椒」を献上した最も古い事例です。

江戸時代、朝倉山椒は天下の名産品となりました。朝倉山椒は、但馬国養父郡朝倉村で栽培が始まりました。伊藤と間宮の2人の生野奉行も山椒が好物であったのでしょう。現在も但馬の特産品として栽培されています。



写真提供:吉田利栄

天空の城、竹田城跡。戦国時代は竹田城主が生野銀山を管轄した。

命じて生野銀山を制圧し、直接支配しました。信長が安土城あつちじょうを築くのは、その7年後の天正4年てんしやうのことです。天下取りを目指す信長にとって、安土城を築くよりも戦略的に重要な施設が生野銀山だったのです。

豊臣秀吉

慶長3年（1598）、豊臣秀吉が全国の金山や銀山から納めさせた^{うんじょう}運上（営業税）の記録があります。銀山では但馬国が6万2千匁^{もんめ}で、全国第1位、全国の83%を占めています。石見国は9千匁で、但馬国に次いで第2位です。

また金山では、越後国えちごが全国第

1位、佐渡国が第2位、但馬国は第6位です。主に銀は生野銀山、金はなかぜ中瀬金山です。但馬の鉱山は、まさに豊臣秀吉の御金蔵だったのです。

徳川家康

慶長5年（1600）、関ヶ原の合戦に勝利した徳川家康は、但馬の鉾山を直轄地としました。生野奉行の間宮直元に命じて、生野の銀山開発に力を入れました。白口の檜木・若林などを開発し、奥銀谷が一気に繁栄しました。慶長14年、徳川家康は生野奉行に命じて、佐渡金山の開発のために、鉾山担当の家臣3名と中瀬金山の鉾山技師3名を1年間、佐渡に派遣しました。

また、^{げんな}元和3年（1617）には、

佐渡金山の鉱山技師、味方但馬みかたたじまが中瀬金山に came ました。佐渡と但馬の交流によって鉱山が栄えました。

■日本は金銀の国

永祿11年（1568）、ポルトガル人のドラードがインドで作った「日本図」があります。この日本地図の石見国には「銀鉾山群王国」、但馬国には「銀金山群王国」と書いてあります。ヨーロッパから見ると、日本の国は金銀にあふれた黄金の国でした。

近代化日本の幕開け

明治政府は近代化を先導する模範鉱山として、生野鉱山を日本初の官営鉱山としました。フランスから24人の鉱山技師（御雇外国人）を迎えて、西洋の鉱山技術を導入した大規模な近代化鉱山を建設しました。

明治5年(1872)には神子畑、明延、中瀬の鉾山も官営となりました。そして、明治29年には三菱の経営に移りました。

代表的な鉱石

今から約1500年前の古墳時代から日本では金・銀・銅が使われています。かつて但馬地方には130を超える鉱山があり、金・銀・銅だけでなく60種類以上の金属を掘り出していました。

私たちの生活は多くの金属によって支えられています。

養父市・朝来市でとれていた
代表的な鉱石



金



銀



銅



錫



アンチモン

HISTORY TIMELINE

奈良

平安

室町

戦国

江戸

明治

- 和銅6年(713) 生野は播磨の国「埴岡の里」に属し、応神天皇により生野と名付けられる。(播磨風土記)
- 天平17年(745)～天平勝宝4年(752) 東大寺の大仏の鑄造にも明延の銅が献上されたと伝わる。
- 大同2年(807) 生野から銀が発見されたと伝わる。
- 応永30年(1423) 但馬守護・山名時熙が生野城(山城)を築く。
- 天文11年(1542) 但馬守護・山名祐豊が生野鉱山で本格的に銀の採掘を始める。(銀山旧記)
- 永禄12年(1569) 織田信長の命を受け、木下秀吉(豊臣秀吉)が山名祐豊を攻め、生野銀山は信長の支配となる。
- 元亀元年(1570) 信長が生野に代官所を置き、銀山を支配を開始する。
- 天正10年(1582) 「本能寺の変」。生野銀山は豊臣秀吉の支配となる。
- 天正元年(1573) 八木川で砂金が発見され、中瀬鉱山の開発が始まる。
- 慶長5年(1600) 「関ヶ原の戦い」。生野銀山は徳川幕府の支配となる。
- 慶長18年(1613) 生野奉行の間宮直元が大坂冬の陣に生野・明延・中瀬の山師を連れて参戦。
- 享保元年(1716) 生野奉行所が代官所になり、以降28代の代官が着任する。
- 天保12年(1841) 代官所内に学問所(尊性堂、後の麗澤館)が開かれる。
- 文久3年(1863) 生野義挙(生野の変)。
- 明治元年(1868) 生野鉱山が明治政府の官営鉱山となる。
- 5年(1872) 神子畑、明延、中瀬の鉱山が官営となる。
- 9年(1876) 生野鉱山で新工場落成式(工部卿・伊藤博文が出席)。
- 生野～姫路市飾磨港間を結ぶ。
- 生野鉱山寮馬車道(銀の馬車道)開通。
- 11年(1878) 神子畑で銀鉱脈を発見。
- 18年(1885) 生野～神子畑間の鉱石運搬専用道路開通。(神子畑・羽洲鉄橋設置)
- 22年(1889) 佐渡鉱山・生野鉱山、大蔵省から宮内省御料局へ所管替え。
- 24年(1891) 生野～神子畑間の馬車道を馬車鉄道(鉱山軌道)に改修。
- 28年(1895) 播但鉄道として飾磨港～生野間49kmが開通。
- 29年(1896) 宮内省による官営を廃止。
- 佐渡鉱山・生野鉱山を三菱合資会社に払い下げ。
- 42年(1909) 明延で錫鉱脈を発見、日本一の錫鉱山へ。

和銅3年
藤原京から
平城京に遷都

明治9年
東海道線
大阪～京都間
開通開業

大正

昭和

和

平

成

令和

- 大正2年(1909) 生野鉱山に錫製錬所を開設。
- 6年(1917) 神子畑鉱山を閉山。
- 明延鉱山の鉱石を生野に送る中継地となる。
- 8年(1919) 明延鉱山の選鉱場を神子畑に建設。
- 後に東洋一の選鉱場といわれる。
- 11年(1922) 生野の銅製錬廃止により、明延鉱山の銅を飾磨港経由で直島製錬所(香川県)に輸送。
- 昭和4年(1929) 明延～神子畑間(約6km)をつなぐ「明神電車軌道」が開通。
- 10年(1935) 中瀬鉱山が日本精鉱株式会社の経営となり、金とアンチモンを産出する。
- 25年(1950) 明延鉱山で鉛・亜鉛を産出、神子畑選鉱場で選鉱処理。
- 27年(1952) 明神電車で乗車賃1円の客車運行。「一円電車」を開始。
- トラック輸送への転換により
- 神子畑～新井間の専用軌道廃止。
- 44年(1969) 含有量減少のため中瀬鉱山の採鉱部門廃止(アンチモンの製錬は継続)。
- 48年(1973) 鉱量枯渇等により生野鉱山の採鉱部門廃止(明延の錫製錬は継続)。
- 49年(1974) 史跡生野銀山(シルバー生野)オープン。
- 60年(1985) 「明神電車軌道」の客車運行廃止。
- 62年(1987) 明延鉱山廃止、神子畑選鉱場閉鎖。明神電車廃止。
- 平成元年(1989) 明延鉱山探検坑道(旧世谷通洞坑)オープン。
- 16年(2004) 「鉱石の道」産業遺産活用調査報告で3鉱山エリアを「鉱石の道」と命名。
- 17年(2005) 「鉱石の道」観光産業活性化事業計画報告書を策定。
- 19年(2007) 経済産業省の近代化産業遺産群に生野・明延・神子畑の鉱山関連遺産(通称「鉱石の道」)が認定される。
- 産業遺産を活用した地域活性化を推進する。
- 「鉱石の道推進協議会」設立。
- 22年(2010) 「一円電車明延線」完成。
- 体験乗車会として定期運行始まる。
- 26年(2014) 「鉱石の道」に中瀬鉱山が加わる。
- 生野鉱山及び鉱山町の文化的景観が重要文化的景観に選定される。
- 29年(2017) 「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道～資源大国日本の記憶をたどる73kmの轍～」が日本遺産に認定。
- 令和2年(2020) 明神電車車両8両が兵庫県指定文化財となる。

大正3年
第一次
世界大戦
勃発

昭和39年
東京
オリンピック
開催

平成7年
阪神・淡路
大震災発生

日本の主な金属鉱山

石見銀山は平成19年(2007)に世界遺産になり、**佐渡金山**は世界遺産へ登録の準備中です。また、日本には世界的にも貴重な**鉱山遺産**として**別子銅山**、**吉岡銅山**、**生野銀山**、**山(神子畑・明延)**などがあります。日本を代表する金・銀・銅などを産出した**鉱山**は、多くの人間が全国的に交流し、**鉱山町**が栄えました。今再び、**鉱山遺産**を生かした観光交流が重要となっています。

■佐渡金山(新潟県)

佐渡金山は、**相川金銀山**・**鶴子銀山**・**西三川砂金山**・**新穂銀山**などの**鉱山**を示す全体の名称です。

江戸時代、**江戸幕府**の役人であった**大久保長安**が**石見銀山**と**佐渡金山**の奉行となり、開発に力を入れました。

「**佐渡の金**、**生野の銀**」といわれたように、**佐渡金山**と**生野銀山**は日本を二分する大**鉱山**です。明治政府や三菱によって近代**鉱山**へと整備されました。現在、「**ゴールデン佐渡**」では見学坑道や**鉱山資料館**を一般公開しています。今も大立**堅坑**、**鉱山車両**などが保存されています。

■石見銀山(島根県)

平成19年に世界遺産に登録された**石見銀山**。天文2年(1533)、博多の**神谷寿禎**が、**石見銀山**に初めて「**灰吹法**」という製錬技術を導入しました。当時の最新技術である**灰吹法**は、**石見**から**生野**や**佐渡**に伝えられ、全国に広まりました。

大森には代官所跡や武家屋敷、郷宿などが残り、国の重要伝統的建造物群保存地区となっています。また、近代化遺産である**清水谷製錬所跡**や**龍源寺間歩**が公開されています。ガイドンス施設として**石見銀山世界遺産センター**があります。

■吉岡銅山(岡山県)

吉岡銅山は、「**吹屋銅山**」とも呼ばれています。**江戸時代**、**鉱山**の捨石から**ベンガラ**を作る技術が発見されました。**吹屋**は、**銅山**と**ベンガラ**の町として栄えました。国の重要伝統的建造物群保存地区となり、大規模な日本建築があります。

明治6年(1873)、三菱が**鉱山**経営を始め、**吉岡銅山**は三菱**鉱山**経営の発祥地とされています。今は銅を採掘した**笹畝坑道**が公開されています。山神社には三菱創始者・**岩崎弥太郎**が寄進した**玉垣**があります。

日本の主要な金属鉱山マップ



佐渡金山(相川北沢選鉱場跡)

■別子銅山(愛媛県)

別子銅山は日本最大の**銅山**で、住友による**鉱山**経営の本拠地です。明治初期、**別子銅山**の総支配人である**広瀬宰平**は、**生野鉱山**で御雇外国人**コワニ**に、**黒色火薬**を利用した近代採**鉱法**を教わりました。

鉱山本部の跡地は「**マイントピア別子**」となり、**鉱山資料館**、**レストラン**、**鉱山鉄道**、**観光坑道**などがあります。また付近には、**別子銅山記念館**・**大山祇神社**もあります。



石見銀山(清水谷製錬所跡)



吉岡銅山(吹屋の町並み)



直島製錬所



別子銅山(第四通洞)



第二章

日本の近代化鉬山の原点

鉬石の道をたどる。



明延から神子畑まで鉬石を運んだ明神電車(昭和61年頃)

近代化日本の鉬山開発は
”ここ”から始まった

明治維新後、日本初の官営鉬山となった生野鉬山、神子畑鉬山（朝来市）、明延鉬山、中瀬鉬山（養父市）は、西洋の進んだ鉬山技術を導入するためフランス人技師を招聘し、近代化の模範鉬山として再開発されました。

特に生野鉬山は、日本初の最新技術が数多く導入されました。機械式製錬技術や本格的な火薬による採鉬方法である発破法^{はつぱ}の他、鉬業用送水路やダム^{ダム}の建設（水力の動力利用・蒸気機関）、トロツコ軌道（鉬山鉄道）の敷設、日本最初の鉬山学校の設立など、近代化日本の鉬山開発はまさにここから始まったのです。

明治4年（1871）には、外国貿易専用の銀貨である一円銀貨が作られ、銀貨と金貨が日本の基本通貨となり、この地域が銀や錫の生産地として日本経済を支えました。

こうした近代鉬山開発の歴史とともに、三鉬山を結ぶ「3つの道」が作られました。

第1の道が、姫路の飾磨港^{しかま}から生野へ石炭などの鉬山用資材を運んだ「生野鉬山寮馬車道」^{いくのこうざんりょうばしやみち}（現在の銀の馬車道）です。

幅が5.4メートルの広い道で、明治9年に完成し、明治28年に播但鉄道（現在のJR播但線^{ばんたん}）が開通するまで使われました。

第2の道は神子畑から生野へ「鉬石」を運んだ鑄鉄橋のある馬車の鉄道です。神子畑鑄鉄橋（国指定重要文化財）や羽瀨鑄鉄橋（兵庫県指定文化財）は、明治政府が明治18年に完成させたものです。

鑄鉄橋という当時の近代的な技術が、国家プロジェクトとして但馬地域の山間部に導入されたことは特筆すべき事柄です。この道は明治42年に軽便鉄道となり、大正13年（1924）にはJR播但線の新井駅とつながりました。

COLUMN

生野と姫路飾磨港を結ぶ「銀の馬車道」

明治9年、生野鉬山と姫路・飾磨港の間、約49kmを結ぶ「生野鉬山寮馬車道」が作られました。フランス人技師・シスレイの指導によって作られた馬車専用道路で、日本初の高速産業道路ともいわれています。完成から約130年が経った今では、道の大部分が国道や県道に変わっていますが、所々に往事の面影を偲ぶ遺構が残っています。現在は「銀の馬車道」と名付けられ、中播磨地域交流のシンボルとなっています。

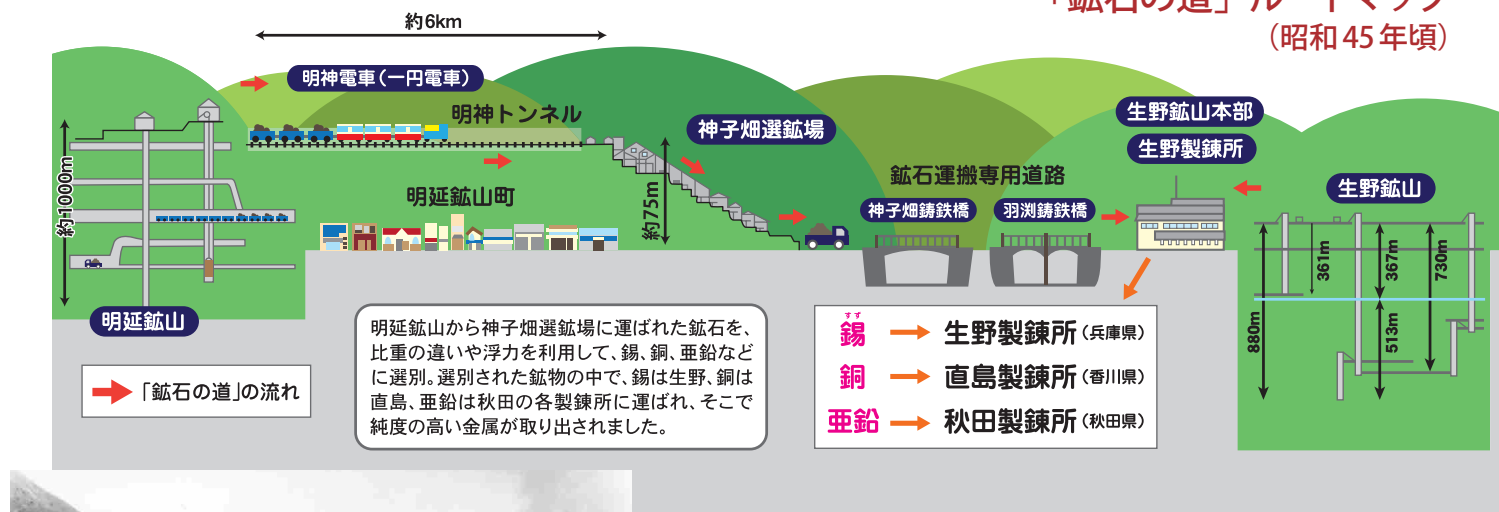


生野鉬山本部前の馬車道



神子畑選鉬場(平成15年頃)

「鉱石の道」ルートマップ (昭和45年頃)



明治時代の生野鉱山本部



明神第三隧道貫通記念写真(昭和4年)

第3の道は明延から神子畑に「錫鉱石」を運んだ明神軌道(一円電車)です。明治42年に明延鉱山で錫が発見され、明延から神子畑へと、牛を使つて山道を運びました。その後、大正元年(1912)に完成した架空索道(ロープウェイ)での運搬を経て、昭和4年(1929)のトンネル完成により、明神軌道が開通しました。

明延の鉱石は、神子畑選鉱場で錫・銅・亜鉛などの鉱物に分離されました。錫は生野鉱山、銅は香川県直島、亜鉛は秋田県秋田市の各製錬所に運ばれました。

四鉱山を結ぶ「鉱石の道」

「鉱石の道」とは、「鉱石の道」産業遺産活用調査報告書(平成16年3月)で命名された名称です。この道は、明延から神子畑へ、神子畑から生野へと、鉱石や人、文化が運ばれた道であり、日本近代化の歴史や今に残る鉱山遺産群をつなぐ道です。

同時にこれから当地を訪れる多くの人々が、近代化産業遺産や地域の人々とふれあう新たな「交流の道」でもあります。

さらに、近代国家の発展に大きな役割を担ったこれらの鉱山遺産を再

評価するとともに、その技術や文化を継承し、地域の産業、生活、文化の活性化に生かそうとする活動そのものが「鉱石の道」です。

「近代化産業遺産」とは?

「近代化産業遺産」とは、近代日本の産業形成と発展において、重要な役割を果たした遺構(いこう)のことです。その中でも、幕末・明治期からの近代化手法によって造られた建築物や構築物、工作物を指します。

経済産業省では、産業遺産を地域活性化に有効活用するために、「近代化産業遺産群」の認定を行いました。

「鉱石の道」は、「我が国鉱業近代化のモデルとなった生野鉱山などにおける鉱業の歩みを物語る近代化産業遺産群」として、平成19年11月30日に認定されました。明延は明延鉱山探検坑道など3遺産、神子畑は神子畑選鉱場跡や神子畑鉄橋など5遺産、生野は生野鉱山関連施設など10遺産です。

こうした日本の近代化に貢献した近代化産業遺産は、独特の機能美とともに、近代日本を築いてきた人々の物語を今に伝えてくれる地域の大切な遺産なのです。



近代化産業遺産

平成19年度 経済産業省

経済産業省

「近代化産業遺産」の取り組み

経済産業省は、産業遺産を地域活性化のために有効活用する観点から、平成19年4月に日本各地に現存している産業遺産を公募し、その実態と保全・活用の取組み状況を調査し、産業遺産の価値の理解を深めるための「近代化産業遺産ストーリー」の作成を行いました。

平成19年度および平成20年度において、地域史・産業史の観点から、33のストーリーを取りまとめた「近代化産業遺産群 33」と「近代化産業遺産群 続33」を公表しました。

近代化産業遺産群を構成する個々の認定遺産に対して認定証とプレートを贈呈し、広報活動、保存方法や活用

方法の具体化などに取り組んでいます。

※詳細は経済産業省ホームページをご覧ください。

■主な「近代化産業遺産」認定事例

※夕張炭田関連遺産【北海道夕張市】

※足尾銅山関連遺産【栃木県日光市】

※群馬県の製糸関連遺産(旧富岡製糸場他)【群馬県富岡市他】

※旧呉海軍工廠関連遺産【広島県呉市】

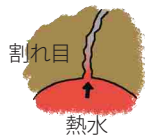
※八幡製鉄所関連遺産【福岡県北九州市他】

※端島(通称:軍艦島)【長崎県長崎市】

近代化産業遺産 認定リスト ～ 生野・明延・神子畑鉱山関連遺産(通称:鉱石の道) ～

名 称	所在地	内部公開	問い合わせ先	備 考
明延鉱山探検坑道 (旧世谷通洞坑)	養父市 大屋町明延	公開 (有料)	あけのべ自然学校 TEL.079-668-0258 FAX.079-668-0099	要予約 観覧料 大人:1,200円 小中学生:600円 14ページに詳細案内
明神電車 (蓄電池機関車・一元電車)	養父市 大屋町明延	公開	養父市大屋地域局 TEL.079-669-0120 FAX.079-669-1682	参加料 大人(高校生以上):300円 小人(中学生以下):1円 11ページに詳細案内
明盛共同浴場「第一浴場」建屋	養父市 大屋町明延	公開 (不定期)	あけのべ自然学校 TEL.079-668-0258 FAX.079-668-0099	
神子畑選鉱場跡	朝来市佐囊(さのう)	内部非公開 (外観は見学可)	鉱石の道 神子畑 交流館「神選」 TEL.079-666-8002 FAX.079-666-8002	外部より見学可能 ※一元電車展示(見学可能)
神子畑選鉱場跡(シックナー)	朝来市佐囊(さのう)	内部非公開 (外観は見学可)	朝来市観光交流課 TEL.079-672-4003 FAX.079-672-3220	外部より見学可能
旧神子畑鉱山事務舎・ ムーセ旧居	朝来市佐囊(さのう)	公開	鉱石の道 神子畑 交流館「神選」 TEL.079-666-8002 FAX.079-666-8002	入館無料 開館時間:10時～17時 水曜休館
神子畑鑄鉄橋	朝来市佐囊(さのう)	公開	朝来市文化財課 TEL.079-670-7330 FAX.079-670-7333	国道429号沿い 駐車スペースあり
羽瀧鑄鉄橋	朝来市羽瀧	公開	朝来市文化財課 TEL.079-670-7330 FAX.079-670-7333	国道312号沿い 駐車スペースあり
生野鉱山関連施設群 (太盛地区)	朝来市生野町 口銀谷(くちがなや)	非公開	三菱マテリアル(株) 生野事業所 TEL.079-679-3111 FAX.079-679-4047	
生野鉱山関連施設群 (金香瀬地区)	朝来市 生野町小野(この)	公開 (有料)	(株)シルバー生野 TEL.079-679-2010 FAX.079-679-2755	観覧料 大人:900円 ※時間、休 中高生:600円 館日は季節 小学生:400円 により変動
鷹ノ巣ダム及び送水路	朝来市生野町	非公開	三菱マテリアル(株) 生野事業所 TEL.079-679-3111 FAX.079-679-4047	
トロッコ道跡(口銀谷地区)	朝来市生野町 口銀谷(くちがなや)	公開	朝来市生野支所 TEL.079-679-2240 FAX.079-679-4638	公園整備しており 自由に見学可能
トロッコ道跡(奥銀谷地区)	朝来市生野町 新町、小野(この)	非公開 (外観は見学可)	三菱マテリアル(株) 生野事業所 TEL.079-679-3111 FAX.079-679-4047	
生野鉱山官舎・社宅群	朝来市生野町 口銀谷(くちがなや)	公開	旧生野鉱山職員宿舍 (甲社宅運営委員会) TEL.079-670-5005 FAX.079-670-5005	入館無料 開館時間:9時～17時 月曜休館(祝日の場合は翌日)
生野鉱山甲5・6号社宅	朝来市生野町 口銀谷(くちがなや)	非公開	朝来市生野支所 TEL.079-679-2240 FAX.079-679-4638	
生野鉱山、寺の上社宅群	朝来市生野町 口銀谷(くちがなや)	希望に 応じて公開	朝来市生野支所 TEL.079-679-2240 FAX.079-679-4638	
鉱山町の町並み	朝来市生野町	—	朝来市生野支所 TEL.079-679-2240 FAX.079-679-4638	
生野鉱山寮馬車道(銀の馬車道)	朝来市 生野町～姫路市	—	銀の馬車道 ネットワーク協議会 TEL.079-281-9059 FAX.079-222-8573	事務局: 兵庫県中播磨県民センター内

鉱石から金属製品ができるまで



熱水鉱脈のでき方

岩石のひびや断層などの割れ目に沿って、鉱物を含んだ熱水(鉱液)が入り込んで、鉱脈が形成される。

僕たちがみんなの元に届けられるまでの流れを紹介するよ!



①探鉱

鉱物が特に集まった場所である「鉱床」を探すこと。古来は鉱脈の先端が地表に露出した露頭を探した。現代は電気探査やボーリング調査などを行う。

②採鉱

採鉱とは鉱脈から鉱石を掘り出すこと。水平に、垂直に、斜めに坑道を作って、効率よく鉱石を掘り出す。明治になり、手掘りから火薬を使った採鉱に変わった。

坑道総延長

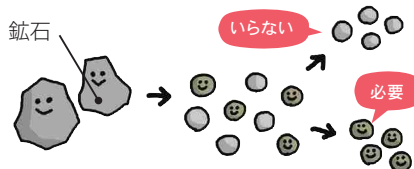


坑道の深さ



③選鉱

採鉱した鉱石を選別。比重の違いや浮力を利用して不純な鉱物を分離させ、銅・亜鉛・錫などの種類に分ける。



基本的な工程

1. 鉱石を粉砕する
2. 粒度の分級をする
3. 有用鉱物を抽出する
4. 脱水・乾燥する

選鉱された鉱石は鉱物の種類によって、それぞれの製錬所に運ばれた

銅

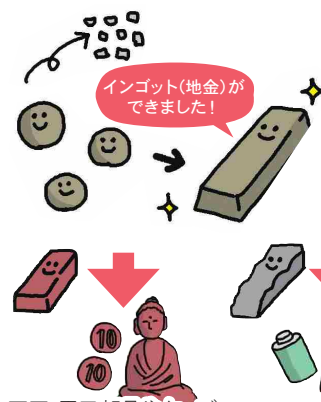
亜鉛

錫

【直島製錬所】香川県

【秋田製錬所】秋田県

【生野製錬所】兵庫県



④製錬

選鉱された鉱石は製錬によって、金属が取り出される。さらに金属の純度を高めるために、「精錬」の工程が行われる。

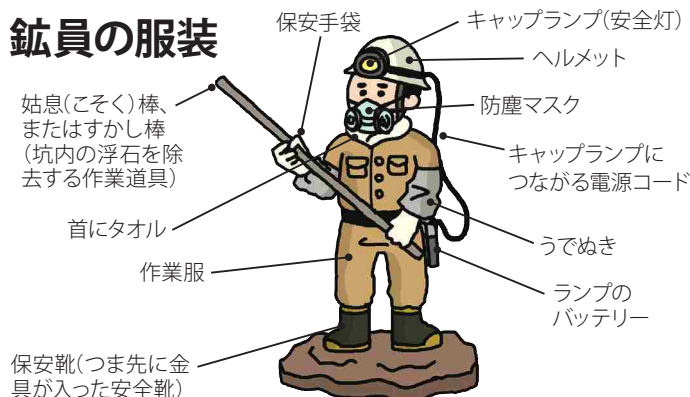
10円玉、電子部品やケーブルなど。奈良の大仏に銅が大量に使われている。

乾電池、亜鉛メッキなどに使われている。

はんだ、食器などに使われている。

各工場で加工され製品になるよ!

鉱員の服装



鉱山用語集

開坑 鉱床に向かって、坑道を切り開くこと。

露頭 岩石や地層が地表に露出しているところ。

間歩(まぶ) 明治時代以前の小さな坑道

鉱床 銅などの鉱物が特に集まったところ。

鉱脈

岩石の割れ目を有用鉱物が満たしてできた板状の鉱床

灰吹法(はいふきほう)

石見銀山から生野に伝わった製錬方法。金や銀を鉱石などから鉛に溶け込ませ、さらにそこから金や銀を抽出する方法

狸(たぬき)掘り

鎚(つち)とたがねで掘り進む江戸時代の採掘法。狸の巣穴のように狭く放射状に広がっている。

ズリ

採掘された鉱石のうち、資源として使えず廃棄する岩石などの部分

スライム

鉱石、岩石などの砂より細かい泥状の物体

グランビー鉱車

鉱石を運搬する車両。鉱車側面の転輪装置(車輪部分)がレールを昇って自動的に荷台部分を傾け、走行しながら鉱石を降ろせる。

ガンチャージャー

鉱山で使用する専用爆薬「アンホ」を、削岩機で開けた穴に圧縮機で装填する装置

ケージ

立坑(縦の坑道)のエレベーター。鉱員、鉱石、ズリ、資材、鉱山車両などの運搬に使用された。

トロリー

ロープウェイのような架線式の滑車

シュリンケージ法

掘った鉱石を足場にして、地底から上に向かって採掘する方法。効率よく経済的かつ安全性が高い採掘方法

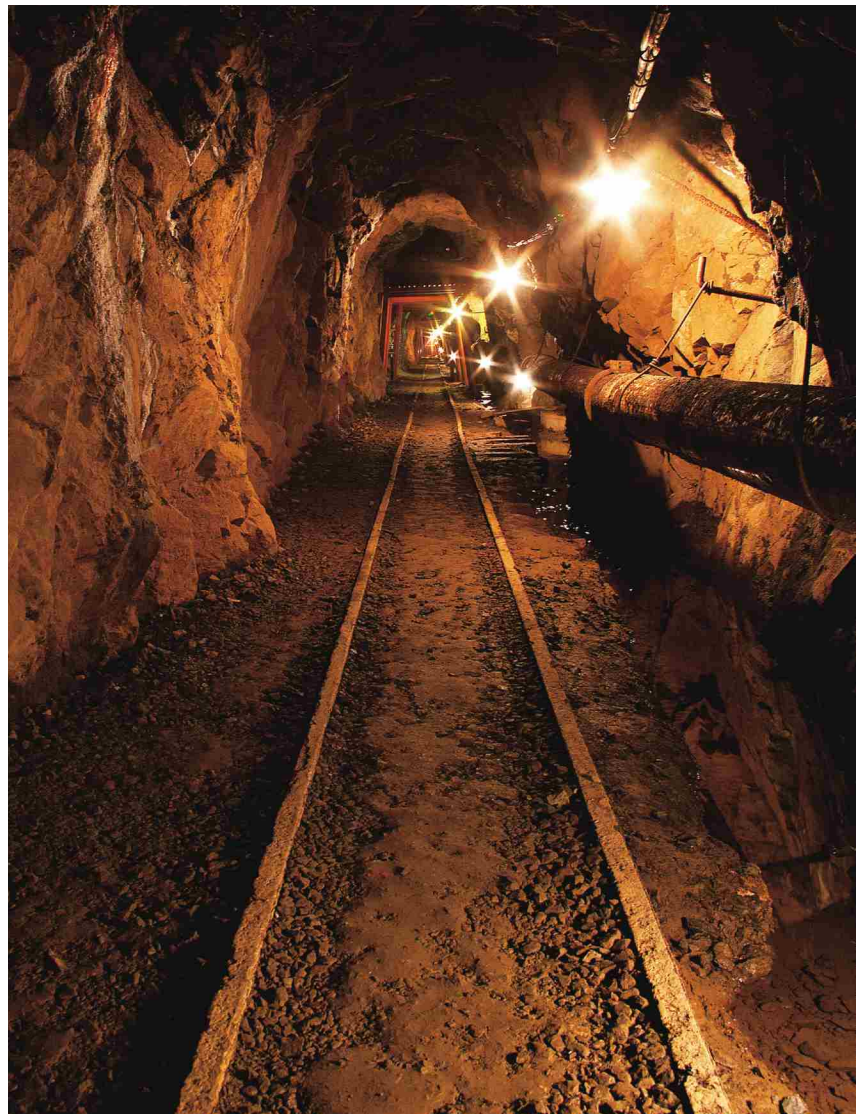


第三章

CONTENTS

明延鉱山

あけのべ



一般公開されている明延鉱山探検坑道(旧世谷通洞坑)

日本一の錫鉱山

奈良・東大寺の大仏鑄造の際に、
明延産出の銅が使用されたと伝え
られる歴史の古い鉱山です。

豊臣秀吉が支配し、江戸時代に
は江戸幕府の下で生野奉行所の所
管になりました。

国内有数の銅山、銀山として盛
衰を繰り返し、明治新政府によっ
て、明治5年(1872)に官営化。

その後、明治29年に三菱に払い下
げられました。

明治42年に錫鉱脈が発見される
と、「日本一の錫の鉱山」として栄え、
海外の最新技術を導入して近代化
が促進されました。錫の産出量は
全国の90%を誇ったといえます。

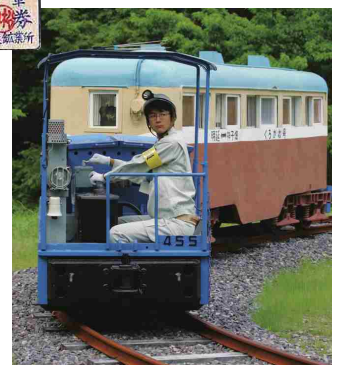
その他にも銅、鉛、亜鉛などの多
鉱種を産出し、全国から「やま男」
たちが集いました。

最盛期とされる昭和30年頃には

COLUMN

一元電車の体験乗車会

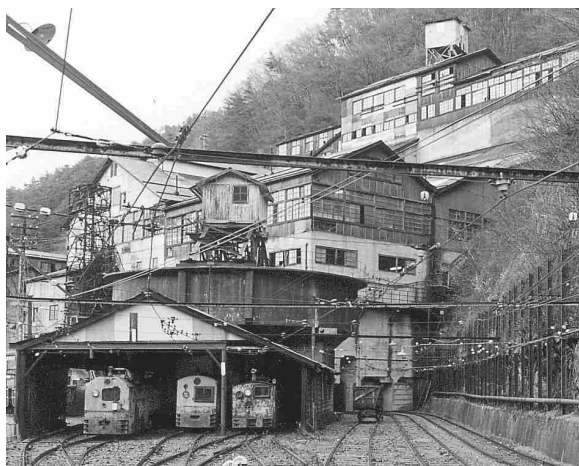
昭和60年まで鉱山従業員や一般人の通勤
電車として、明延～神子畑間を運行していた
一元電車。一元電車が走る姿を復活させよう
と、全国から寄せられた募金で、平成22年10
月に手づくり線路「一元電車明延線」が有志の
手によって開設されました。地元ではこの線
路を使って、4～11月までの月1回・GW・夏
休み期間中の日曜日、定期運行を続けていま
す。1周150メートルの手作り線路をガタゴト
と走る姿は当時を思い出させてくれます。
(問) あけのべ自然学校 079-668-0258



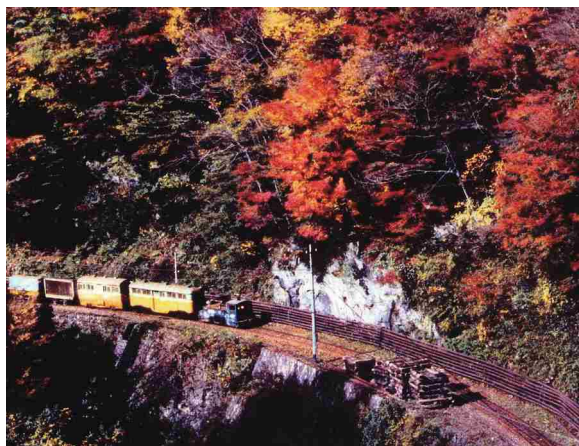
従業員は1500人、職員住宅に暮
らす所帯数は1200以上、人口も
4000人を越えていました。

明延は鉱山町として栄え、鉱山
が経営するスーパーや総合病院の他
に、映画館や遊技場などの娯楽施
設もあり、現代のニュータウンに匹敵
するような都市が出現しました。

明延鉱山は、やがて世界的な鉱
物の価格競争に巻き込まれます。
円高によって採算性が合わなくなる



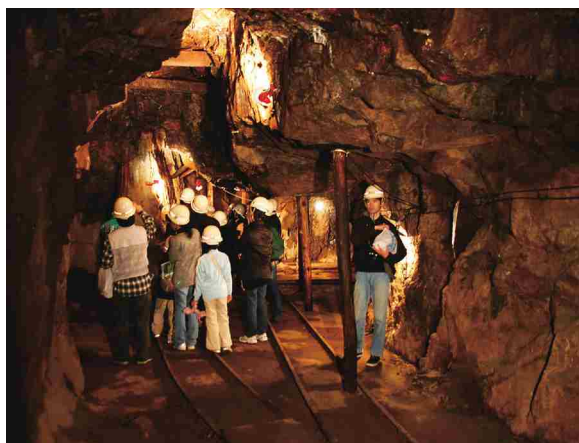
かつての明延鉱山 大仙粗砕場



在りし日の一円電車(出合付近／昭和60年頃)



明延鉱山探検坑道の入り口



明延鉱山探検坑道のガイド案内



あけのべ憩いの家横の「鉱山の里」の石碑

中、昭和62年(1987)3月、有望な鉱脈を残したまま、閉山となりました。

坑道の総延長は約550キロにも及び、平面的な広がりには約5キロ平方メートル、深さ約1000メートルまで掘り下げられています。

鉱山周辺の岩石は、約2億5千年前に、泥、火山灰、溶岩などが固まったもので、6000万年前の地殻変動で地層に多くの割れ目ができました。

その割れ目に沿って、錫、銅、亜鉛、タンゲステンなどを含んだ鉱液が地下深部より上昇し、鉱脈を形成しました。これを「熱水鉱床」と呼んでいます。

一円電車

昭和4年(1929)、明延鉱山と神子畑選鉱場までの約6キロを運行する「明神軌道」が開通し、明延で採鉱された鉱石を運搬しました。昭和20年からは、鉱山従業員の通勤電車としても利用されました。

昭和24年に従業員運搬用に客車を付けるようになり、一般の乗客も運ぶようになりました。客車には「くろがね」「白金」「赤金」などの名前が付けられています。

昭和27年、1日の乗降数を数えやすくするために乗車料金が1円となり、「二円電車」の愛称で親しまれました。

平成19年(2007)公表の近代化産業遺産認定遺産リスト(経済産業省)において、「明神電車と蓄電池機関車」が選定されています。

明延鉱山探検坑道

明延鉱山探検坑道は、鉱山閉山後、旧世谷通洞坑の一部を明延鉱業(株)が青少年の鉱山学習施設として整備しました。近代鉱山の姿を残す貴重な産業遺産として、現在は養父市が管理運営を行っています。

探検坑道の総延長は650メートル。坑内には閉山まで使用していた大寿立坑跡、車両系鉱山機械、削岩機、1トン鉱車などが、当時と同じ姿で展示、公開されています。



明延鉦山から朝来市の神子畑選鉦場までの約6キロの区間を運行していた「明神電車」。あけのべ憩いの家の前には「電気機関車N0.18」と「白金号」が展示されている。



あけのべ憩いの家・
一円電車「白金号」



土地を少しでも有効利用するため、川にせり出すように家が建てられている。



左官職人の心意気が伝わるタバコ屋さんの看板。龍の口からはかれた炎が文字に!!



探検坑道の見どころ

全坑道の総延長は約550km! 東京～大阪間の東海道新幹線に匹敵する長さ



大寿立坑

明延鉱山には立坑(エレベーター)が7カ所あり、坑道見学ではこの「大寿立坑」だけが公開されている。昇降距離は約420mで、人員昇降の場合は分速150m、鉱車や資材は分速300mもの速さで運搬していた。2階建てで、上下段8人ずつ計16人が1度に乘ることができた。



坑内用ダンプトラック(左)
ロードホールダンプ(右)



約20mの巨大鉱脈跡

鉱脈に沿って鉱石を掘った採掘跡で、探検坑道一番の見所。鉱脈の良鉱部が巨大な空洞となっている。



昭和10年代の削岩風景

明延鉱山で最も機械化が進んだのは、昭和20～30年代。この頃導入された削岩機は閉山時まで使用された。末期にはロードホールダンプなどの大型の鉱山車両が多数導入された。分解して坑道の中に運び、地下で組み立てられた。

明延鉱山探検坑道 - DATA -

旧世谷通洞坑の一部を一般公開しています。探検坑道の総延長は650m。坑内には閉山まで使用していた大寿立坑跡、車両系鉱山機械、削岩機、1トン鉱車など、当時と同じ姿で展示、公開されています。

◆兵庫県養父市大屋町明延1184

◆大人・高校生1,200円、小・中学生600円

※坑道見学は事前予約(3日前まで)が必要です。

※4月～11月(第1)までの毎週日曜日は予約不要の「日曜見学会」を開催しています。

(問) あけのべ自然学校 079-668-0258(平日受付)

酒蔵「明壽蔵」

坑道内は年間平均13℃前後と一定であることから、養父市産「有機蛇紋岩米」を使用した純米吟醸酒「仙櫻(せんさくら)」・純米酒「明延(あけのべ)」の熟成にも利用されている。



当時のままの姿で...

当時のまま姿が保たれている探検坑道には、むき出しの地面や鉱車が走っていた線路、送風や圧縮空気を送る鉄パイプも残されている。



木彫展示館

明治後期に建築された旧板尾医院を改修した温もりある空間に木彫フォークアートの作品を展示する木彫の美術館です。木彫展示館の所在する大屋町大杉地区は、三階建ての養蚕農家住宅が建ち並び日本を代表する養蚕集落で、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

【所】兵庫県養父市大屋町大杉 826

【時】9～17時(入場は16時30分まで)

【料】中学生以上200円、小学生100円

【休】月・火曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始

【問】079-663-8070



おおやアート村 BIG LABO

廃校となった高校の校舎を再利用。木彫、木工、書、絵画、陶芸、染織などの手づくり体験が楽しめる木造校舎や、体育館を改装したギャラリーなどがあります。講師は地元の芸術家であり、のんびりした空間で、つくって、まなんで、たのしいアートの実験が楽しめます。(要予約)

【所】兵庫県養父市大屋町加保7

【時】9～17時(入場は16時30分まで)

【料】ギャラリー入場料: 大人300円、

中学生以下150円

【休】水曜(祝日の場合はその翌日)

【問】079-669-2449



あゆ公園・ おおや農村公園

あゆ特定漁場の大屋川近くにある水と魚の体験公園。魚のつかみ取り、釣りなどができます。つかまえた魚や釣った魚は川のほとりの「川の家」でバーベキューや塩焼きにして食べることができます。また、すぐ近くにあるおおや農村公園はコテージ、体験工房などがあります。

【所】兵庫県養父市大屋町加保 582

【問】079-669-1822



若杉高原(温泉)

若杉高原では夏でもウインタースポーツを楽しめる! スキー、スノーボードでジャンプするBAGJUMPとウォータージャンプ。その他サマーゲレンデ、キャンプ場、ドッグランなど、自然あふれる高原でめいっぱい楽しめます! 場内に温泉もあります。

【所】兵庫県養父市大屋町若杉 99-2

◎若杉高原温泉

【時】ホームページにて確認

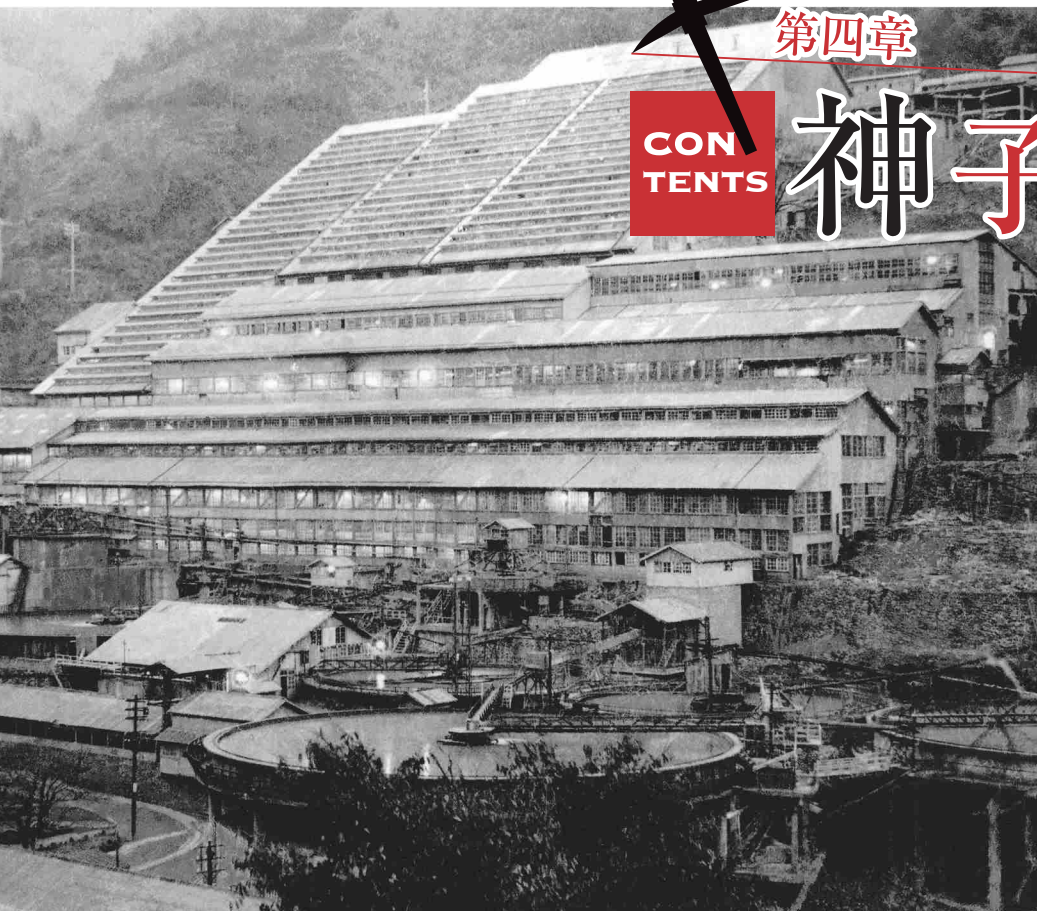
【休】夏季は土日祝日のみ営業

※冬季の営業はHPで確認を。

【料】大人600円、小学生以下400円

【問】079-669-1576

近隣ガイド



第四章

神子畑鉱山

みこばた



社宅が並ぶ神子畑地区(写真奥が選鉱場)



旧神子畑鉱山事務舎(ムーセ旧居)

東洋一といわれた在りし日の神子畑選鉱場(昭和30年代頃)



COLUMN

旧神子畑鉱山事務舎

明治5年(1872)、生野に5棟の異人館の町並みが出現しました。鉱山開発を行う御雇外国人のための工部省の官舎です。設計はフランス技師レスカス。その中のひとつがこの建物で、通称「ムーセ旧居」と呼ばれています。明治21年に、生野から神子畑に大蔵省の鉱山役所として移築されました。翌年には、所管替えによって宮内省御料局の鉱山役所になり、このため現在の鉱山事務舎には、瓦に菊の紋章が残っています。現存する宮内省御料局の鉱山事務舎は、佐渡相川と神子畑の2棟だけです。

その後、大正時代から昭和58年まで診療所などに利用されました。平成4年に県指定文化財となりました。平成16年に保存修理工事が進められ、鉱山事務舎の姿に戻りました。国が推進した日本鉱山の近代化を語る歴史的建造物であり、近畿地方に現存する最古級の異人館でもあります。



神子畑鉱山の足跡

神子畑鉱山は平安時代に開山したと言われ、15世紀から採鉱が盛んになったとされています。

神子畑鉱山が最も繁栄したのは、明治10年代から30年のこと。明治の新政政府が生野鉱山周辺を調査した結果、明治11年(1878)に新鉱脈が発見され、生野鉱山の支山「加盛山」として銀の採鉱が始まりました。

しかし、明治40年以降は鉱脈が減少し、新鉱脈を探すことになりました。明治42年に明延鉱山で錫脈が発見されたことで、採鉱は明延に移りました。神子畑鉱山は明延鉱山の鉱石を選鉱する「神子畑選鉱場」に生まれ変わりました。

東洋一の選鉱場

明延鉱山で採鉱された鉱石の選鉱場となった神子畑は、大正8年(1919)に錫の選鉱場を竣工。昭和9年(1934)には硫銅選鉱場を開設し、昭和15年の拡張工事を経て、「東洋一」と言われる選鉱施設となりました。

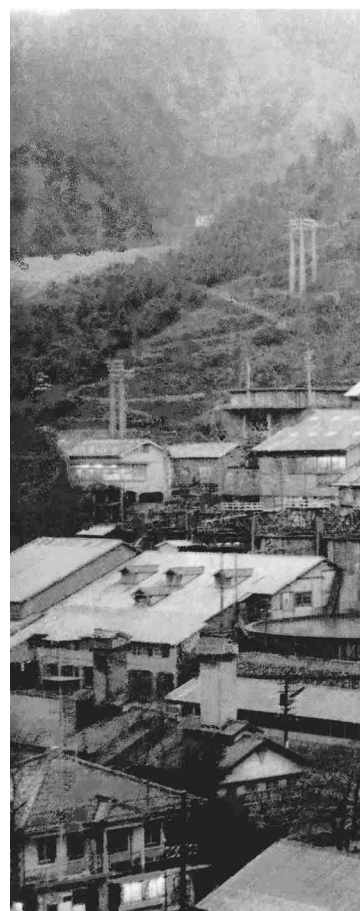
選鉱場跡は、平成15年(2003)の調査で、内部の階層は延べ22階、幅110メートル、斜距離165メートル、高低差75メートルという規模が確認されています。木造部分と鉄骨部分があり、一部鉱石などを入れる容器としての鉄筋コンクリート造の部分もあります。

選鉱場跡に佇む通称「ムーセ旧居」は、元々生野鉱山に建設された



現在の神子畑選鉱場跡。周辺は公園整備され、間近で見学できる。

外国人宿舎のひとつです。神子畑鉱山の開発にともない、明治21年にこの地に移設され、鉱山事務舎を経て診療所などに利用されました。昭和30年頃の神子畑地区には、約1300人ものが生活していました。鉱山が経営するスーパーの購買会、映画を上映した協和会館や文化会館（卓球・柔道・ビリヤード）など、福利厚生施設も充実していました。



明治33年にはいち早く鉱山私立の神子畑小学校が創立（後に公立）。最盛期には230人を超える小学生が在籍していました。今も残る体育館は、昭和30年代の最新技術であるプレコン工法で建てられた貴重な遺構です。

昭和62年（1987）、明延鉱山の閉山にともない、神子畑選鉱場の操業を停止し、閉鎖しました。

その建物は長らく残っていました。平成16年に老朽化のため取り壊され、現在はコンクリートの基部



COLUMN

一円電車里帰り

「道の駅あさご」で展示されていた一円電車が、平成24年春、23年ぶりに朝来市佐裏の「神子畑選鉱場跡」に里帰りしました。帰ってきた車両は、電気機関車、客車「わかば号」、貨車の3両。昭和62年の明延鉱山閉鎖に伴い、廃線となった一円電車。神子畑選鉱場跡に常設展示されることになりました。

一円電車は、神子畑の他に明延や生野でも展示されています。それらの電車は全て明延鉱山工作課の神子畑機械工場で製造されたものです。現在、神子畑で展示されている場所がまさに一円電車が生まれた工場の跡地です。電車の製造や修理も大切な鉱山技術のひとつでした。



神子畑選鉱場前の公園に展示されている一円電車。元々はこの場所で製造された。

やシクナー（液体中に混じる固体粒子を泥状物として分離する装置）の一部等が残っています。

現存する日本最古の鑄鉄橋

国道429号沿いに架かる神子畑ちゅうつぎやう鑄鉄橋は、日本に現存する全鑄鉄製の橋としては最古のもので、国指定重要文化財（建造物）です。

明治11年（1878）、神子畑鉱山で良好な銀鉱脈が発見され、明治14年に本格開坑。その鉱石を生野鉱山の製錬所に運搬するために、輸送用道路が必要となりました。

神子畑から生野まで16・2キロ、幅員36メートルの馬車の鉄道（鉱山軌道）が整備され、神子畑川には多くの橋が架けられました。

この工事は明治16年4月から2年間に渡って行われ、総工事費4万



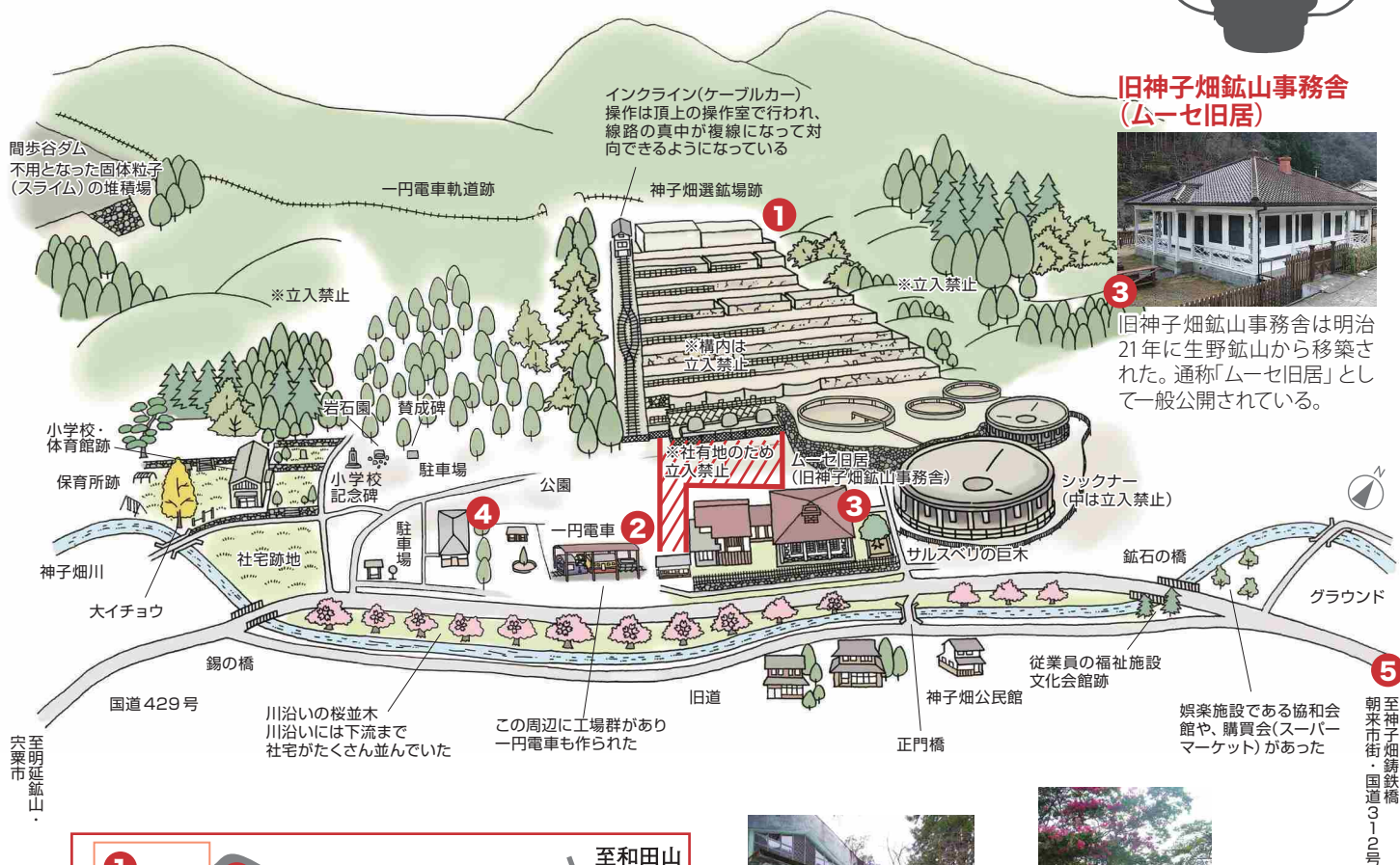
日本最古の全鑄鉄橋「神子畑鑄鉄橋」（国指定重要文化財）

円をかけた大工事でした（現在の約4億円）。この時、一番上流にかけられたのが神子畑鑄鉄橋です。

鑄鉄橋とは鑄物で造られた橋のこと、全国的にも珍しい橋です。

設計から施工までを全て日本人が行ったもので、御雇外国人と呼ばれたフランス人技師の力を借りずに作りました。美しく組まれたらん干やたて格子の横材には、日本的な特徴が見られます。

木橋、石橋から煉瓦橋へ、さらに鑄鉄、鍊鉄、鋼鉄の橋へと変わっていく日本橋梁史の流れの中で、神子畑鑄鉄橋はその過渡期的なものです。鑄鉄橋の歴史の中で最終段階の形式であり、歴史的価値の高い貴重な文化財です。



ムーセ旧居前にある「サルスベリ」は県指定郷土記念物。開花時期は8～9月頃。

神子畑エリアをはじめ、鉱石の道の魅力を発信する観光交流拠点。
 鉱石の道ジオラマや神子畑地域の資料・展示に加え、オリジナルグッズ
 などの販売をしている。



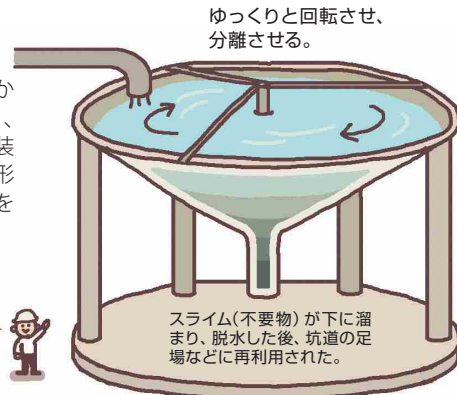
(右)液体中に混じる固体粒子を分離する装置「シックナー」は百尺(約30メートル)の他に、55尺(約16メートル)がある。(左)選鉱場の昇り降りを行った「インクライン(ケーブルカー)の軌道跡」。頂上の操作室から手信号で乗降が行われた。(※構内は立入禁止)

選鉱施設を大解剖

シックナーの仕組み

微細な個体が混じった液体から、水分を除いて濃縮(脱水)、固体物を取り出す非過分離装置。シックナーと呼ばれる円形の水槽で、鉱石と水分・薬品を分離して精鉱を回収しました。

円錐の形にはこんな
秘密があったんだね!

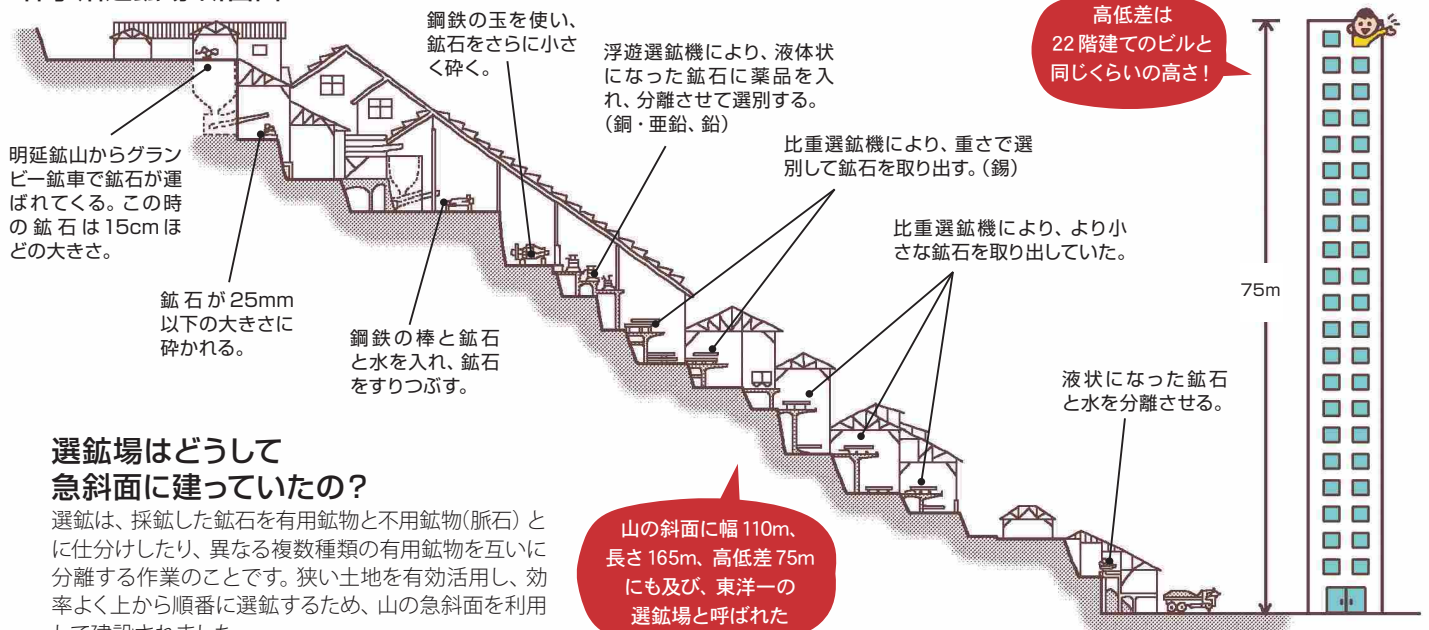


インクライン

傾斜面にレールを敷いて、動力で台車を動かして貨物を運ぶ装置のことをインクラインといいます。ケーブルカーと構造は同じで、貨物用の場合、特にインクラインと呼ばれます。神子畑選鉱場は傾斜地に作られていたので、各フロアの物と人の移動を担っていました。巻き上げ機で台車を2つ繋いで斜面を往復していました。操作は頂上の操作室で行われ、線路の真中が複線になって対向できるようになっています。



神子畑選鉱場 断面図



選鉱場はどうして急斜面に建っていたの?

選鉱は、採鉱した鉱石を有用鉱物と不用鉱物(脈石)とに仕分けたり、異なる複数種類の有用鉱物を互いに分離する作業のことです。狭い土地を有効活用し、効率よく上から順番に選鉱するため、山の急斜面を利用して建設されました。



さのう高原

中国山脈の美しい山々を眼下に、パラグライダーの絶好のフライトエリアとして知られる高原です。自然を活かしたアドベンチャーパーク「フォレストアドベンチャー・朝来」では、手軽に本格アスレチックを体験できます。

【所】兵庫県朝来市佐のう
【問】朝来市観光交流課
079-672-4003



道の駅あさご 村おこしセンター

国道312号線沿いにある道の駅。地元の新鮮な野菜などが店舗前に陳列しており、冬季になると朝来市特産の岩津ねぎも並びます。施設内のお食事処「ささゆり」では、あっさりした鹿肉定食が女性に人気! 鉱石をイメージした「あさご鉱石バーガー」が土日祝限定で販売されています。

【所】兵庫県朝来市多々良木 213-1
【時】物産・野菜販売店: 8~18時、レストラン: 9時30分~16時
【休】1/1 休館 【問】079-678-0808



あさご芸術の森美術館

多々良木ダムの下に広がる緑深い静けさの中に、大きなモニュメントが溶け込んだあさご芸術の森があります。美術館では、朝来市が生んだ日本を代表する彫刻家・淀井敏夫のほぼ全作品を常設展示する他、企画展示などを行っています。

【所】兵庫県朝来市多々良木 739-3
【時】10~17時(6~8月は9時30分~17時/入館は閉館の30分前まで)
【休】水曜及び祝祭日の翌日・展示替え日
【料】大人500円、高校・大学生300円、小・中学生200円
【問】079-670-4111



国史跡 竹田城跡

山城遺跡として全国でもまれな完存する遺構であり、天守台は標高353.7mの山頂に築かれています。現存する遺構は、赤松広秀の入封(天正13年)後、文禄・慶長期に作られたものと考えられています。別の名を「虎臥城」とも呼ばれ、国の史跡に指定されています。秋から冬にかけてのよく晴れた早朝に朝霧が発生し、雲海は但馬地域の風物詩になっています。

【所】兵庫県朝来市和田山町竹田
【問】情報館 天空の城
079-674-2120

近隣ガイド

開坑1200年の歴史

日本でも有数の銀山として知られる生野鉾山は、大同2年（807）に開坑したと伝わっています。

『銀山旧記』によれば、天文11年（1542）に城山の南表で銀鉾脈が発見されたのをきっかけとして、但馬守護・山名祐豊が、石見銀山から当時の先進技術を導入して採



第五章

生野鉾山

いくの



明治期に建てられた職員宿舎は一般公開されている。

掘を始めた」と記されています。以後、山名氏から織田信長、豊臣秀吉、徳川家康へと経営が移管し、時の支配者の直轄地として銀山開発が盛んに行われました。

江戸時代には生野奉行所が置かれ、享保元年（1716）に生野代官所へ変わると、以後、28代の代官が任務に就きました。

生野で採掘された銀は、朝鮮の綿布や中国の絹と交換貿易されるなど、日本の代表的な輸出品として海外からも注目されるようになりました。天下の台所・大坂の貨幣経済や文化にも大きな影響を与えています。

中でも出鉾量の多い坑道には、生野奉行所から「御所務山」の称号が与えられ、これを祝して山師（鉾山の経営者）は、「御見石」の山車



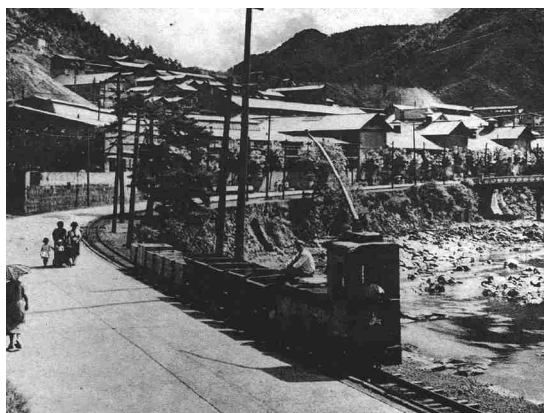
COLUMN

生野義挙（生野の変）

文久3年（1863）10月の生野義挙（生野の変）の事跡を後世に伝えるため、昭和15年（1940）に代官所跡地に碑が建立されました。生野の変は勤王の志士と但馬の農民が一緒になって生野代官所を占拠した事件です。わずか3日で破陣となり、明治の世まで生き延びた者は数人にすぎませんでした。この生野義挙は明治維新の先駆けとなったといわれています。生き延びた人物の中には、京都府知事の北垣国道や実業家で知られる原六郎がおり、明治の近代化に貢献しました。



生野鉾山全景。世界の最新技術を備えていたため、全国各地から視察に訪れた。（明治9年頃）



市川沿いのトロツコ道を走る電気機関車(大正9年頃)

日本最初の官営鉱山

を引き回しました。当時は銀山七か町といわれ、7つの町が銀山と密接な関係を保ちながら発展してきました。

明治元年(1868)9月、生野鉱山は日本最初の官営鉱山となりました。日本の近代化を牽引する模範鉱山となったのです。

フランスから御雇外国人と呼ばれる鉱山技師や、新政府の有能な人材が生野に集いました。

中でもフランス人技師・コワニエと、薩摩出身の鉱山局長・朝倉盛明は、世界に誇る壮大な鉱山開発を計画し、生野鉱山の発展に多大な貢献をしました。西洋から最新の鉱山

設備が導入され、明治9年、世界でも有数の近代的な鉱山工場群が誕生しました。コワニエは教育にも力を入れ、明治2年に開設された生野鉱山修学実験所(後の生野鉱山学校)の教授も兼任しています。

この時、鉱山施設、動力用水路、鉱石輸送路、職員宿舎などが市街地と融合して建設され、全国でも珍しい独特の鉱山町を形成しました。

明治22年に宮内省御料局の所管となり皇室財産に編入。明治29年には三菱合資会社へ経営が譲渡され、昭和48年(1973)の閉山まで日本の鉱業振興の中核を担いました。

COLUMN

生野にあった異人館(外国人宿舎)

明治維新の後、日本初の官営鉱山となった生野鉱山には、御雇外国人と呼ばれる鉱山技師たちがフランスから訪れました。明治5年(1872)、生野には5棟の異人館(外国人宿舎)が建設され、彼らはここで生活をしました。また、現在も残る一区公民館(旧生野警察署)は、これらの洋風建築を模して日本人が建てたもので、生野の洋風文化を今に伝えています。



生野にあった異人館(外国人宿舎)、奥側がムーセ旧居

史跡生野銀山

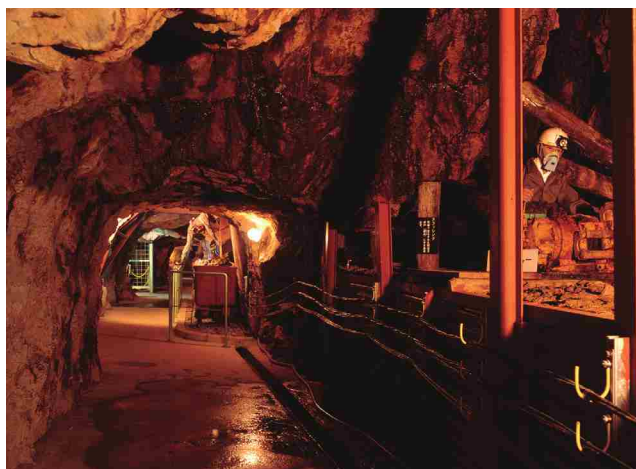
ピーク時の昭和30年には人口1万1083人を数え、操業時の坑道は深さ880メートル、総延長は約350キロ、採鉱した鉱石の種類は70種以上にも及んでいます。

生野には鉱山施設やトロツコ軌道跡(鉱山鉄道)など、今でも数多くの産業遺産が残り、一般公開されている建造物も多くあります。

昭和49年に観光施設として(株)シルバー生野が開業し、一部が観光坑道として一般公開されています。全長約1キロ、往復約40分の内部は採鉱作業を再現し、近世から近



石組みで築造された観光坑道入口(金香瀬坑口)



史跡生野銀山の観光坑道(シルバー生野)

代までの移り変わりを分かりやすく紹介しています。

また、毎日1回・13時30分からのボランティアガイドと巡るツアーも人気があり、より詳しく生野銀山の歴史を知ることができます。

平成19年(2007)には、銀鉱脈が発見されてから1200年を迎え、「生野銀山開坑1200年事業」が盛大に行われました。

さらに、平成23年3月には、施設内にある「生野鉱物館」が「生野銀山文化ミュージアム」としてリニューアルオープン。鉱山の歴史や地域文化についてのパネル展示の他、800点以上の鉱物標本を公開しています。



く 口銀谷 ちがなやMAP



1 生野書院

旧家の面影を残す重厚な佇まいの郷土資料館である生野書院。古文書や生野町絵図、銀山旧記など、生野の歴史を伝える貴重な史料類を保存、展示している。
*無料、9時30分～16時30分、月曜休館(祝日の場合は翌日)
(問)079-679-4336

旧生野警察署(一区公民館) 6



旧生野警察署は異人館をまねた左右対称の擬洋風建築物。地元の大工、杉浦嘉作が洋館を模して明治19年に建設。正面の軒瓦下には警察の紋章と生野の旧町章が残されている。三角ペディメントに軒蛇腹と、ドアが2つ左右対称に設置されているのが特徴的。現在は一区公民館として活用されている。



駅前にある旧日下旅館は明治43年に建設。大正10年に木造の三階建てに増築された国登録文化財。



寺町通りには8ヶ寺あり、教徳寺(写真)ではカラミ石が塀や階段に使用されている。



井筒屋の裏手の駐車場・公園には、生野瓦(赤瓦)やカラミ石がモニュメント化されている。

口銀谷銀山町ミュージアムセンター(旧浅田邸・旧吉川邸)



古民家を活用した観光交流施設。趣のある書院造りの建物では、むくり(ゆるやかな弧を描いた屋根)のある入母屋根などを見学できる。
*無料、9～17時、月曜休館(祝日の場合は翌日) (問)079-670-5006

生野まづくり工房井筒屋



井筒屋は江戸時代に公用で生野代官所を訪れた際に宿泊が必要となったときの「郷宿」。江戸からの巡見使など要人が泊まった記録が残っている。現在はギャラリーや住民の交流の場だけでなく、観光客の憩いの場としても活用されており、昔の史料やおもちゃなど貴重な品々が展示されている。紅茶クッキーのふるまいや、手作り小物の販売もある。
*無料、9～17時、月曜休館(祝日の場合は翌日)
(問)079-679-4448

旧生野鉾山職員宿舎



志村喬記念館

官営生野鉾山に勤務していた官吏の旧宿舎。漆喰の土塀に囲まれ、口銀谷の町家とは異なる趣を残す。俳優・志村喬も鉾山社宅で育ち、1棟は記念館になっている。
*無料、9～17時、月曜休館(祝日の場合は翌日)
(問)079-670-5005

WALK
MAP奥銀谷
おくがなやMAP

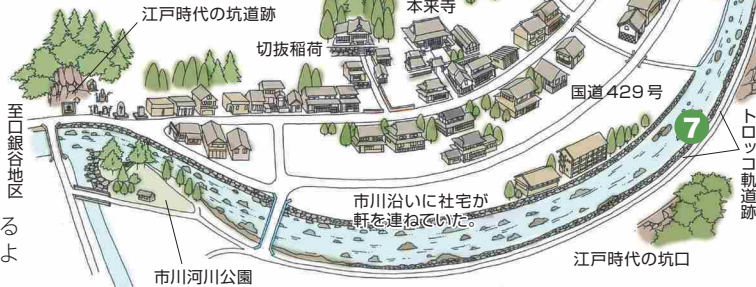
生野周辺MAP



市川に点在する「洵(ゆ)り池」跡。汰物師(ゆりものし)という女性たちは、この穴に溜まった石くずを選別して、少しでも生活の足しになるように売っていた。



国道429号沿いの山肌にある江戸時代の坑道跡。手堀りによるもので、至る所で見られる。



江戸期に発展した奥銀谷にはうだつを掲げた白壁、格子窓の旧家といった町家が残る。周辺には、山師といわれる鉱山経営者たちも住んでいた。



赤瓦の趣のある古民家(小野町)

氏神・熊野神社

六地藏

長屋がたくさんあった

小野町は生野銀山とともに来え、かつては住民の9割が鉱山関係者だった

本源寺

庚申堂・六地藏

あつた家師が

大野山

史跡生野銀山 (シルバー生野)

河原町稲荷

小野大橋 (生野踊り・総踊り)

西洋画家・白瀬幾之助ゆかりの家

昭和30年代には朝来郡一の児童数を誇った旧奥銀谷小学校

立松和平ゆかりの寺・大用寺(十六羅漢・恩龍の鐘)

鉦山施設の動力用送水路跡

江戸時代の坑道跡

切抜稲荷

本来寺

市川沿いに社宅が軒を連ねていた

市川河川公園 (Pあり)

江戸時代の坑口

トロッコ軌道跡

小野大橋 (生野踊り・総踊り)

河原町稲荷

史跡生野銀山 (シルバー生野)

あつた家師が

大野山

庚申堂・六地藏

本源寺

小野大橋

西洋画家・白瀬幾之助ゆかりの家

昭和30年代には朝来郡一の児童数を誇った旧奥銀谷小学校

立松和平ゆかりの寺・大用寺(十六羅漢・恩龍の鐘)

鉦山施設の動力用送水路跡

江戸時代の坑道跡

切抜稲荷

本来寺

市川沿いに社宅が軒を連ねていた

市川河川公園 (Pあり)

江戸時代の坑口

トロッコ軌道跡

小野大橋 (生野踊り・総踊り)

河原町稲荷

史跡生野銀山 (シルバー生野)

あつた家師が

大野山

庚申堂・六地藏

本源寺

小野大橋

西洋画家・白瀬幾之助ゆかりの家

昭和30年代には朝来郡一の児童数を誇った旧奥銀谷小学校

立松和平ゆかりの寺・大用寺(十六羅漢・恩龍の鐘)



道の駅 フレッシュあさひ

播但連絡有料道路のサービスエリアとして、また、国道312号から3分という位置にある道の駅です。地元の農産品や名産品の販売コーナーやレストランなどがあります。

【所】兵庫県朝来市岩津96
【時】8時40分～20時、レストラン：9～20時(L.O19時25分)
【休】無休 【問】079-670-4120



黒川温泉 美人の湯

美人の湯として知られている日帰り温泉施設。お食事処も併設していて、ポタン鍋や生野ハヤシライスを楽しむこともできます。

【所】兵庫県朝来市生野町黒川457-1
【時】11～20時(5～9月)、11～19時(10～4月) 【休】水曜(祝日の場合は営業)
【料】大人600円、小学生300円、幼児(0歳～)100円 【問】079-679-2067

● 近隣ガイド

史跡生野銀山 観光坑道 - DATA -

1,200年前の銀発見から昭和48年の閉山に至る歴史を伝える「史跡生野銀山」は、地底に繰り広げられた壮大な文化遺産。坑道内は年間約13℃と涼しく、約1キロに渡り明治以降の近代的坑道と江戸時代以前の手掘の跡を同時に見学できます(※団体客には無料ガイドあり・要予約)。さらに広大な銀の露天掘跡、鉦山資料館、吹屋資料館、生野銀山文化ミュージアムなど、見所いっぱい！

◆兵庫県朝来市生野町小野33-5

◆大人900円・中高生600円・小学生400円・小学生未満無料

◆4～11月：9～17時(※冬季は変動あり)

◆年末年始・12～2月のみ火曜休館(祝日は翌日)

◆毎日1回、13時30分より無料ガイド案内あり

(問) 株式会社シルバー生野 079-679-2010



史跡生野銀山では1,200年の歴史と回廊を感じることができる

第六章

CONTENTS

中瀬鉾山

なかぜ

日本一の自然金とアンチモン

なかぜ
中瀬金山は、天正元年（1573）、やぎがわ
八木川の大日淵で砂金が発見された
ことが契機となり、現在の石間歩坑
口付近で金鉾脈が発見されました。天正13年、天下を統一した豊臣秀
吉は、中瀬金山を直轄地である蔵
入地としました。そして、豊臣大名
である、八木城主別所重棟、続いて別所吉治に代官を命じました。江
戸時代になると徳川幕府の直轄地
となり、生野奉行間宮直元が支配
しました。中瀬の北側にある高台に
陣屋（金山役所）を建設し、下奉行
（上代）を派遣しました。金山の開
発と経営を推進し、近畿地方でも
最大の金山町として開発しました。明治5年（1872）には、神子
畑・明延とともに官営鉾山となり
ました。その後、但馬地域の鉾山は
農商務省生野鉾山分局、宮内省御
料局と所管が変わり、明治29年
には生野・神子畑・明延とともに、三
菱の経営となりました。昭和10年、日本精鉾株式会社が経
営を開始しました。金とアンチモンを
産出する近代鉾山として発展し、昭
和10年から昭和44年までの34年間で
金約73トンを生産しました。通常、鉾石に含まれる金の粒子
は10マイクロメートル（0.01ミリ
メートル）ほどの小さな粒子です。
しかし中瀬鉾山の自然金の中には
長さ7センチメートルもある棒のよ
うな結晶があり、日本最大の金の
結晶として、アメリカのスミソニアン
博物館でも展示されています。金は、1トンの鉾石に5グラム程
度の含有量があれば採算がとれましたが、採掘可能な鉾脈の金の含
有量が減少した結果、昭和44年に
採掘部門は閉鎖しました。採掘部門の閉鎖後もアンチモンの
製錬は継続され、現在は世界的にも
最高品質のアンチモンを製錬して、国
内生産の80%以上を占めています。（アンチモン…硬くてもろい銀白色
の元素。古代には顔料として使用
されていた。現在は触媒や減摩材、
ガラス清澄剤などの材料として用い
られる。）

COLUMN

鉾石運搬車両
「ナベトロ」中瀬金山関所横のトロッコ広場には中
瀬鉾山で昭和44年（1969）まで使われて
いた鉾山車両を展示しています。地下の坑
道では酸素が大切です。空気が汚れるガソ
リン機関車は使えないため、バッテリーを
搭載した蓄電池式機関車が活躍しました。
また、鉾石の運搬車両、通称「ナベトロ」
は兵庫県内に唯一残っている車両です。

中瀬陣屋と3つの口番所

慶長5年（1600）、徳川家康から任命された生野奉行間宮直元は、中瀬金山役所の普請を命じた。記録では役屋敷（陣屋）と2軒の上代屋敷、3カ所の門（八木口門、大屋口門、足坂口門）と、その門番の住居が各2軒、牢屋や米蔵も造られました。中瀬の町は、3つの出入口に門番を置く鉾山町として町並みや水路が整備され、中瀬の町で金の製錬を行いました。当時製錬で使用された石臼が、現在も町中に点在しています。



現在の中瀬鉾山跡

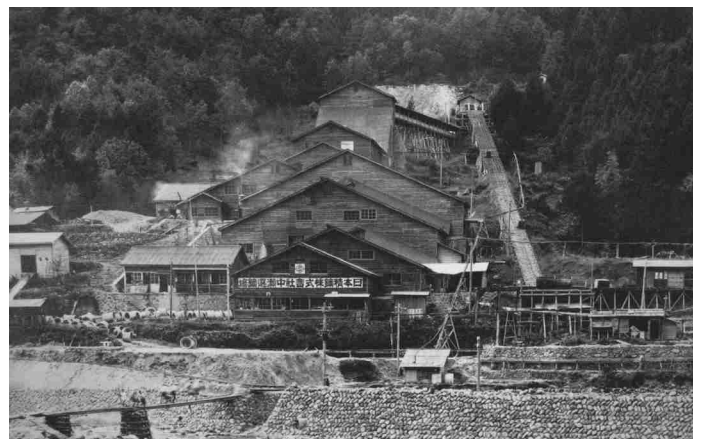
中瀬鉾山の近代化

昭和10年、日本精鉾株式会社を経営に移つてからの中瀬鉾山は、金とアンチモンの鉾石を産出する近代鉾山として発展しました。

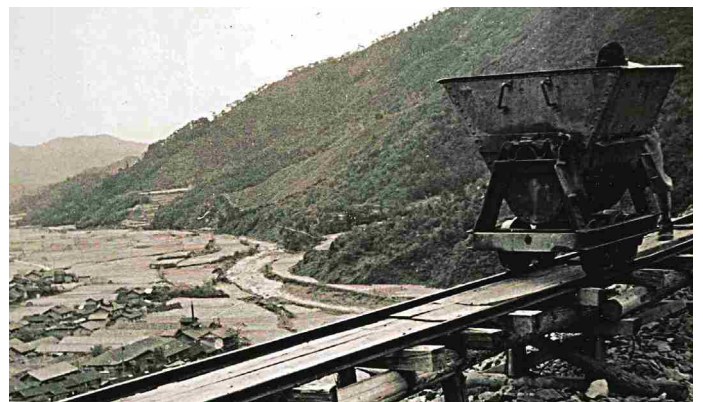
昭和12年（1937）に1日の処理能力が1000トンの機械式選鉾場を建設し、昭和13年には坑道の排水用にディーゼルエンジンによる5馬力ポンプを建設しました。昭和15年に万寿堅坑が貫通し、金鉾石の生産が増加しました。昭和18年には



現在の中瀬鉾山跡



昭和初期の中瀬鉾山



昭和20年代の不要な石を運搬する様子

30馬力のコンプレッサーが導入され、新しい金鉾脈を掘り始めました。

金鉾石は中瀬鉾山で粉碎して細かく砕き、比重の違いや浮力を利用して、銀を含んだ青金になるまで選鉾しました。その後、選鉾した金はトラックで山陰本線養父駅に運んで鉾石専用のプラットフォームで貨車に積み込み、姫路市飾磨駅まで鉄道で運び、さらに飾磨港から船で三菱金属鉾業株式会社直島製錬所に送って製錬し、純金のインゴットになりました。

昭和23年、アンチモンの産出量は

全国の73・1%を占め、金は全国第5位の産出量となりました。アンチモン専用の製錬所を建設し、一貫作業を進めました。選鉾場のほかに変電所、鉄工所、木工所、分析所を整備しました。こうした技術が現在の三酸化アンチモンの製造へと結びつきました。現在、三酸化アンチモンは不燃材として、生活用品になくてもならない原材料となっています。

日本精鉾株式会社は、昭和10年から昭和44年までの34年間で、金約7・3トン、銀約38・97トン、アンチモン約6000トンを出鉾しました。



中瀬 なかせ MAP



宝引山(803m)



金の鉱石を砕いた石臼

御林
(幕府直轄林/通称"城山")

展望台



中瀬鉱山の自然金
レプリカ展示



至国道9号
養父市街地



2 陣屋(金山役所跡)



天正10年(1582)、豊臣秀吉配下の奉行によって、この付近に金山屋敷が建てられた。江戸時代に入った慶長5年(1600)、徳川家康配下の生野奉行・間宮新左衛門によって、ここに金山役所、役宅、米蔵、牢屋が建てられたと伝えられる。享保8年(1723)に役所は廃止されたが、その敷地と古い石垣が今に残る。

1 中瀬金山関所(トロッコ広場)



まちの交流拠点施設。鉱山関係資料の展示の他、隣接するトロッコ広場には、鉱山稼働時期に使用していたトロッコを常設している。

中瀬周辺MAP



中瀬金山町を歩く

中瀬は東西 700 m、南北 350 m の範囲にあります。長方形街区を伴う町並みがあり、人工的に引かれた水路が廻ります。豊臣政権期から江戸時代初期にかけて、鉱山都市として整備されています。うだつの並ぶ街道北側の高台に陣屋跡があります。金光寺・大日寺・金昌寺・宝泉寺・常運寺の 5 寺院は中瀬が金山町として繁栄した証しです。



うだつの上がる
中瀬の街道



4 石間歩坑口

天正 2 年(1574)、中瀬で初めて開かれた間歩(=坑道)。その後も、昭和 44 年の閉坑まで主要坑道の一つとして活躍した。
※立ち入りには許可が必要



金昌寺

曹洞宗で慶長 14 年(1609)



金光寺

浄土真宗で寛永 3 年(1626)には存在



宝泉寺

日蓮宗で文禄 2 年(1593)



常運寺

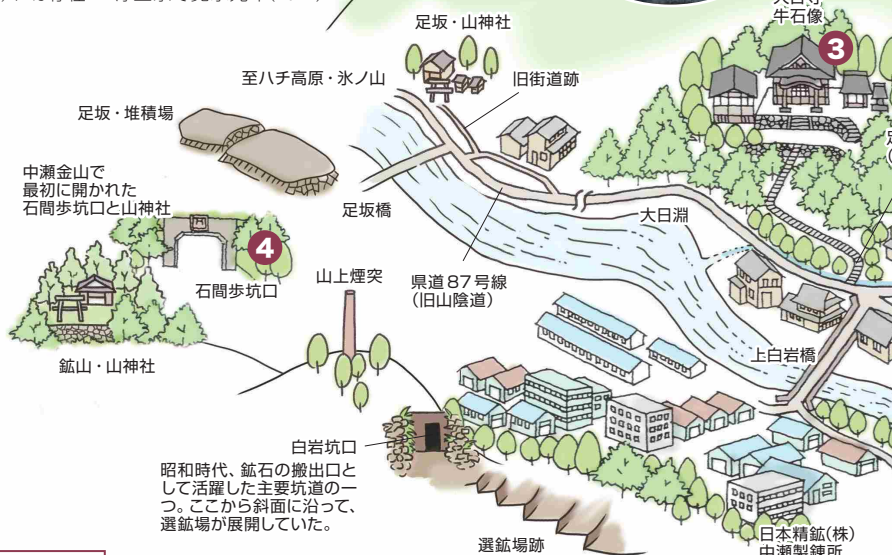
浄土宗で寛永元年(1624)

この寺の下「大日淵」で砂金が発見されたことで、中瀬金山が見つかった。牛石像があり、農家が牛を飼っていた頃の「大日祭り」は大層な賑わいだった。

3 高瀬山大日寺



大日寺
牛石像



昭和時代、鉱石の搬出口として活躍した主要坑道の一つ。ここから斜面に沿って、選鉱場が展開していた。

町の中を流れる水路



中瀬町歩きガイド - DATA -

町歩きはガイドと一緒に歩くのがオススメです。

町中に点在する見所を説明してもらいながら、江戸時代に整備された町を歩きます。事前申し込みが必要です。

◆兵庫県養父市中瀬 ◆ガイド 1 人につき 2,000 円(10 名程度につきガイド 1 名) ◆1 時間程度(見学内容・時間は相談に応じます)
(問) 養父市役所関宮地域局 079-667-2331



ハチ高原 THE PARK

ハチ高原は、四季折々の大自然のパノラマが広がる西日本有数のアウトドアエリアです。ハチ高原 THE PARK ではキャンプやグランピング、その他アクティビティを運営。ご家族やご友人と大切なひと時を過ごすことができます。

【所】 養父市丹戸字越中 881-1
【時】 チェックイン 14 時～チェックアウト 10 時 【期】 4 月末～10 月末
【問】 (直通) 080-8894-7312、(管理) パークホテル白樺館 079-667-8001



山田風太郎記念館

「魔界転生」、「甲賀忍法帖」など映画、テレビ、舞台、マンガ・アニメなどで、今なお多くのファンを魅きつける作家・山田風太郎は、大正 11 年、兵庫県養父郡関宮村(現養父市関宮)の生まれです。館内では書斎の一隅を再現、数々の資料を展示しています。近くに現存する生家もあります。

【所】 兵庫県養父市関宮 605-1
【時】 9～17 時(入館は閉館の 30 分前まで) 【料】 大人 300 円、小・中・高校生 100 円 【休】 月曜(祝日の場合は翌日) 【問】 079-663-5522



PEAKS café

国道 9 号線沿いの関宮地域にある羽瀨精肉店が展開しているお洒落なカフェ。自家焙煎コーヒーと、国産黒毛和牛を使用したハンバーガーを楽しめるお店です。外にはテラス席もあり、ゆったりとくつろぐことができます。

【所】 養父市関宮 266
【時】 11～L.O 16 時(当日 16:00 までに連絡あれば 16 時以降も商品お渡し可) 【休】 月曜、第 3 日曜
【問】 079-667-3464



道の駅ようか但馬蔵

蔵をイメージしたゆとりの空間と、地元の果物や野菜など品揃えが豊富な道の駅です。蛇紋岩米や八鹿豚などの特産品を使った料理を楽しめるお食事処もあります。足湯もあるので旅の疲れも癒されます。

【所】 養父市八鹿町高柳 241-1
【時】 レストラン: 11～16 時 30 分(土曜日は 18 時 30 分、日・祝日は 19 時まで)、テイクアウト: 9～17 時 15 分(土・日・祝日は 17 時 30 分まで)、売店・野菜蔵: 9～17 時 30 分(土・日・祝日は 19 時まで)
【問】 079-662-3200

近隣ガイド



第七章

鉾山の暮らしと文化



JR 生野駅西口

生野瓦【生野】

生野の寒冷な気候に耐えられるように、普通の瓦より硬く焼いた瓦で、カラミ石と同様に生野特有の景観を造り出しています。通称「赤瓦」とも呼ばれ、赤褐色の独特の風合いは、レトロな町をいっそう際立たせます。新設されたJR生野駅西口や、平成22年度に復元工事が行われた「旧生野鉾山職員宿舎」の一部には復元された生野瓦が使われています。

カラミ石【生野】

銅などを製錬する時にできたカスを固めたもので、鉾滓(こうさい)といひます。地元では「カラミ石」と呼んでいます。生野鉾山周辺の家の土台や堀、水路、公園のベンチなどで使用されています。各辺数10cmの直方体に成形されたカラミ石は、重さ約100kgにも及びます。口銀谷地区の但馬口番所跡近くにはカラミ石の井戸があります。



マンホール【生野】

生野の町を散策する際には、足下にも気を配って歩いてみましょう。マンホールには、旧生野町時代の町木「ドウダンツツジ」、同じく町花「リンドウ」、観光名所「魚ヶ滝」、そして史跡生野鉾山の「金香瀬抗口」がデザインされています。



菊の御紋【生野】

明治9年(1876)に完成した生野鉾山新工場の正門は、昭和52年、シルバー生野(史跡生野鉾山)に移転して保存されています。大小2組の門柱で、大柱は幅・奥行ともに1m、高さは4.6mあって、メートル法で作られています。コワニエによる設計で、明治政府の所有を示す「菊の御紋」が入っています。鉾山の道エリアには、他にも官営や皇室財産であったことを示す「菊の御紋」の入った施設が残っています。

鉾山施設



トロッコ軌道跡【生野】

生野の町を走っていた馬車鉄道を廃止して、大正9年(1920)に電車軌道として完成しました。市川にアーチ形に石垣を積んで、川に張り出して線路を確保。今もその美しい姿を見ることができます。当時は生野鉾山本部から生野旧駅までを、アメリカ製の6トン電気機関車が走る500ミリ軌道で結びました。現在、軌道の残る遊歩道として整備しています。

明延鉾山住宅

【明延】

昭和11年(1936)頃に建設された北星社宅は現在も4棟が残っており、通称「長屋」と呼ばれています。4つの鉾山全てにこうした社宅群が建てられました。明延では7地区に次々と社宅が建設され、昭和29年頃からは最新鋭の住宅としてプレコン2階建、3階建の住宅が建ちました。北星社宅の景観は、国内でも他の地域に残っていない貴重なものです。



現在の旧北星社宅



鉾山臼【中瀬】

鉾山臼は16世紀後半から江戸時代に鉾山の粉成作業(細かな粉にすること)に使用されたもので、主に金山で使用されることから金山臼とも呼ばれます。全国の鉾山の中でも使用が限られる珍しい道具ですが、中瀬鉾山では約100点が確認されており、全国有数の金山として栄えたことを示しています。注意しながら集落を散策すると、石垣や庭石などの中に石臼を見つけることができます。

鉾山特有の町並み



いわつ 岩津ねぎ【神子畑】 生野

岩津ねぎは、江戸時代に生野銀山の役人が京都からネギの種子を持ち帰り、鉱山従事者の冬の生鮮野菜として栽培を始めたことがきっかけといわれています。現在では、博多の「万能ねぎ」、群馬の「下仁田ねぎ」と並ぶ日本有数の名物ねぎとして、その名が知られています。朝来市の冬の特産品(11月下旬～3月上旬)として、市内の道の駅、国道312号沿いの直売所などで販売しています。

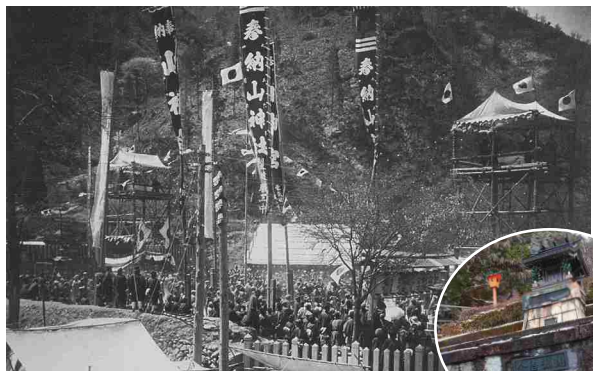
鉱山町のお祭り



生野踊り(盆踊り)【生野】

生野踊りは京都から移住してきた山師(江戸時代の鉱山経営者)が、盂蘭盆会の際の娯楽として、また、鉱山で亡くなった人への供養の盆踊りとして、都から踊りの師匠を招いて振り付けさせたことが始まりといわれています。「尺八」「三味線」「太鼓」「くどき」で構成されている行列踊りで、明治時代にはこれらの鳴り物の他に、「鐘」「小鼓」が加わっていました。

鉱山の風習



山神社(山神さん)

日本の鉱山には山で働く人々の安全と発展を祈願して、山の神が祀られています。4つの鉱山も同様で、鉱山の神様である愛媛県の大三島に鎮座する大山祇神社より分霊をいただき、山神社の社殿が建設されて御神体が安置されました。人々は「山神(さんじん)さん」と親しみを込め、毎年、春の大祭には鉱山も休業となって「山神祭」が開かれ、立派な神輿が町内を練り歩きました。また、各坑口の上部にも山神さんが祀られています。

史跡生野銀山
観光坑道入り口



レトルトには昭和30年代と昭和40年代の2種類ある

※店舗によって異なります
(写真:ロクログ)



ハイカラな食文化

ハヤシライス【生野】

生野鉱山が最盛期を迎えていた昭和30～40年代、都会から転勤してきた鉱山職員の社宅にはハイカラなものがたくさんありました。ハヤシライスもそのひとつで、洋食が珍しかった当時、生野の子どもたちにとって赤褐色の食べ物は強く印象に残ったといえます。現在、復刻ハヤシライスの提供店が点在しており、当時の味をベースにした各店オリジナルの味が楽しめます。また、お土産用にレトルトパックも販売されています。

明神電車【明延】

鉱山で掘り出された鉱石は、明治43年(1910)から牛車や馬車で山を越えて運ばれ、大正元年(1912)からは全長5,750mの空中索道で神子畑に搬送されていました。そして鉱山の近代化とともに昭和4年(1929)に明延ー神子畑間の隧道が完成し、鉄道での輸送が開始されました。



明延探検坑道出口には、鉱石運搬に使われた機関車と鉱車が展示されています。実際の鉱石運搬にはこの鉱車が30両連結されて鉱石を輸送していました。

明盛共同浴場 (第一浴場)【明延】

国の近代化産業遺産にも認定されている「明盛共同浴場(第一浴場)」跡。かつては6カ所も浴場がありました。「場」の文字が旧漢字なのも時代を感じさせます。鉱山生活者の共同浴場で、入浴料は無料でした。当時は芋の子を洗うような混雑ぶりだったそうです。現在は明延ミュージアム「第一浴場」として明延鉱山の鉱石や道具類を展示しています。



はぶち 羽瀨鉄橋 【神子畑】

神子畑鉄橋と同じく、明治16年(1883)に始まった鉱石運搬用道路の建設時に作られた鉄製二連の橋。「羽瀨のめがね橋」とも呼ばれる、美しい洋式の橋です。平成7年(1995)に架橋時の姿に復元し、現在の場所へと移設されました。(兵庫県指定重要文化財)



坂ノ谷プレコン社宅

御雇外国人



コワニエ

鉱山技師兼鉱学教師として、明治元年にフランスから生野鉱山へ招聘されました。生野鉱山の調査や施設の近代化などに力を入れました。明治10年に数々の功績を残して後をムーセに託し、フランスへ帰国しました。



シスレイ

コワニエの妻の弟。生野から姫路飾磨港を結ぶ、日本で初めての高速産業道路「生野鉱山寮馬車道(銀の馬車道)」の工事総監督として尽力しました。



大島 道太郎

岩手県盛岡出身。ドイツの鉱山学校へ留学し、日本各地の鉱山開発に従事した金属工学者。生野鉱山技師を務め、「生野鉱山鉱業改良意見書」を提出。生野鉱山鉱夫共済組合の設立にも関わりました。

あさくら もりあき
朝倉 盛明

本名は田中静吾で薩摩出身。イギリスとフランスに留学し、英語や鉱山学を学びました。コワニエの通訳をしながら生野鉱山の調査に関わり、宮内省御料局理事や生野支庁長などを務めました。



鉱山の経営

ムーセ

コワニエの右腕ともいわれ、明治4年に技師として生野へ赴任しました。コワニエ帰国後は生野鉱山技師長となり、輝かしい功績を残しています。

レスカス

「生野鉱山寮馬車道」の設計や、異人館の設計監督を行いました。他方、愛知県明治村にある西郷従道邸や三菱倉庫などの設計も手がけています。



鉱山の技術者

かつべ いくお
勝部 郁男

一円電車「くろがね号」「白金号」の設計者。後に大手興産(現・三菱マテリアルテクノ)の社長となりました。くろがね号は昭和24年、白金号は昭和27年の完成。製作は明延鉱山工作課千畑機械工場。

作家

たてまつ わへい
立松 和平

生野、足尾で腕利きの鉱夫として活躍した曾祖父をモデルに小説『恩寵の谷』を執筆。

政治家

やまだ あきよし
山田 顕義

長州藩出身で、明治の政治家。初代司法大臣、日本大学、國學院大学の創設者。生野義挙で自刃した親族の河上弥市(南八郎)を慰霊後、生野鉱山視察中に倒れて急逝しました。

いとう ひろぶみ
伊藤 博文

初代内閣総理大臣。明治9年の生野鉱山新工場落成式に、工部卿として同地を訪れています。

あさだ ていじろう
浅田 貞次郎

生野出身で衆議院議員として活躍し、播但鉄道建設や生野銀行設立に貢献。明治29年の鉱山民間払い下げの際には恩賜金の確保に尽力しました。

鉱石の道 ゆかりの 人物

生野出身の三面伯

生野には鉱山の影響で日本各地から人や物の交流があり、最先端の文化や情報が入ってきました。日本の近代洋画壇を代表する3人の画家が生野で生まれています。

しらなわ いくのすけ
白瀧 幾之助わだ さんぞう
和田 三造あおやま くまじ
青山 熊治

鉱山の関係者

なかえ たねぞう
中江 種蔵

豊岡市出身で鉱山司として生野鉱山に赴任し、コワニエらと鉱山の開発に尽力しました。「中江済学会」という育英基金を創設しました。

ひろせ さいへい
広瀬 宰平

別子銅山総支配人、初代住友総理人。生野でコワニエより火薬を使った近代的採鉱法を習得。コワニエを招き、別子銅山の近代化を成し遂げました。

たかしま ほうかい
高島 北海

本名は高島得三。生野鉱山で学んだ経験から、日本初の独自で作成された地質図『山口県地質図』『山口県地質分色図』を制作しました。

わだ つなしろ
和田 維四郎

日本最初の鉱業法典『鉱業条例』を制定。明治28年に宮内省御料局生野支庁長に任ぜられ、生野鉱山払い下げの件に携わりました。貴重な鉱物標本「和田コレクション」は、史跡生野銀山の生野銀山文化ミュージアムで公開されています。

しむら たかし
志村 喬

日本映画史に残る名優。生野の自宅で生まれ、少年時代を過ごしました。名作『生きる』『七人の侍』など、黒澤明作品には欠かせない役者として活躍。そのいぶし銀の演技は、国内外から高い評価を得ています。昭和48年の帰郷の際には、生家の鉱山社宅にも訪れ、幼い頃の思い出を語りました。

第八章

CONTENTS

これからの
鉱石の道

日本の鉱山史を
体感・体験できる
歴史文化ミュージアム

「鉱石の道」エリアには、かつて日本を代表する鉱山群があり、江戸時代には江戸幕府が経営し、明治期には初の官営鉱山として日本の近代化を支えました。

鉱山遺産や古い町並み、鉱山の暮らしと文化が色濃く残り、近世から現代までの鉱山の歴史、技術、生活史の変遷をたどることができる「歴史文化ミュージアム」ともいえる地域です。

「鉱石の道」の活動

養父市、朝来市、兵庫県では、鉱山遺産の活用をはかりながら地域活性化に取り組むため、平成19年（2007）に経済産業省の近代化産業遺産群33の認定を契機に「鉱石の道推進協議会」を設立しました。

また、平成29年（2017）には「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」資源大國日本の記憶をたどる73kmの轍」として、文化庁により

日本遺産に認定されました。

鉱石の道推進協議会では、地域のみなさんと一緒に「鉱石の道」の歴史、文化、景観が持つ価値や魅力を地域内外へ情報発信するとともに、他の様々な地域資源との連携による新たなツーリズムの創出にも取り組んでいます。

地域の元気を再び

私たちが暮らす但馬地域に残る鉱山の歴史、文化、景観などは未来へ伝えるべき大切な地域の「誇り」であり、「宝物」です。

こうした鉱山施設の一部は、今も現役の産業施設として稼働する一方で、観光、体験学習施設としても活用されています。

さらに元気なまちづくりに取り組む人々が活躍し、暮らしを営んでいます。これら全てがまさに、鉱山の歴史や生活史を貴重な地域遺産として未来に伝え、活用する活動なのです。

鉱石の道推進協議会は、行政・企業・地域のみなさんと一緒にこれらの地域遺産を生かした多彩な交流や活性化の取り組みを進め、「地域の元気」を再び取り戻すための活動を進めていきます。

主な地域の活動例



神子畑選鉱場跡のガイド案内

- ◆ 鉱石の道推進協議会…鉱石の道の価値、魅力の情報発信と地域活性化活用の推進
- ◆ 「鉱石の道」明延実行委員会(養父市明延)…明延探検坑道、一円電車の保存、活用
- ◆ NPO 法人一円電車あけのべ…産業遺産の調査・研究と保存・活用、地域活性化事業
- ◆ 中瀬金山会(養父市中瀬)…中瀬金山・金山町の保存、活用
- ◆ 神子畑鉱石の道推進協議会…神子畑選鉱場跡ボランティアガイド、オリジナルグッズの作成
- ◆ NPO 法人モンターニユ…サイクリングイベントやインバウンド向け旅行商品の開発など
- ◆ 口銀谷の町並みをつくる会…ボランティアガイドや鉱山文化の情報発信
- ◆ NPO 法人いくのライブミュージアム…鉱山町の写真収集とデータ保存
- ◆ 生野まちづくり工房井筒屋運営委員会…井筒屋の管理とひな祭り等地域活性化活動
- ◆ 甲社宅運営委員会…旧生野鉱山職員宿舎・志村喬記念館の管理とイベント運営
- ◆ 南の浅田邸管理委員会…口銀谷銀山町ミュージアムセンターの管理運営
- ◆ 生野ひいきの会…会員制まちづくり基金による地域イベントなどの支援
- ◆ 銀谷祭り実行委員会…銀谷祭りの開催
- ◆ へいくろう祭り実行委員会…生野銀山へいくろう祭の開催

※地域の活動をさらに活性化するためのNPO法人化に向けた取り組みも進んでいます。



アクセスマップ



拡大MAP

広域MAP

JR

大阪駅～生野駅	約2時間
三ノ宮駅～生野駅	約1時間35分
姫路駅～生野駅	約50分
大阪駅～八鹿駅	約2時間20分
三ノ宮駅～八鹿駅	約2時間20分
姫路駅～八鹿駅	約1時間20分

車

大阪(中国吹田IC)～生野	約1時間20分
神戸(神戸三田IC)～生野	約50分
姫路(姫路JCT)～生野	約30分
大阪(中国吹田IC)～養父IC	約1時間50分
神戸(神戸三田IC)～養父IC	約1時間20分
姫路(姫路JCT)～養父IC	約1時間

◆明延へのアクセス

JR 山陰本線「八鹿駅」下車→全但バス「明延」行きで約1時間／北近畿豊岡自動車道「養父IC」より県道6号養父穴栗線で約30分

◆神子畑へのアクセス

JR 播但 線「新井駅」下車→タクシーで約20分／播但連絡道路「朝来IC」より国道429号で約15分

◆生野へのアクセス

JR 播但線「生野駅」下車／播但連絡道路「生野」出口すぐ

◆中瀬へのアクセス

JR 山陰本線「八鹿駅」下車→全但バス「中瀬」

主な地域イベント情報 ※赤字は鉱石の道関連イベント

3月上旬	銀谷のひな祭り(朝来市生野町)
4月第2日曜	天滝まつり(養父市大屋町)
4月中旬	神子畑桜まつり(朝来市佐のう)
	生野銀山へいくろう祭り(朝来市生野町)
4月29日	ミズバショウ祭り(ミズバショウ公園／養父市大屋町)
5月上旬	銀谷のわらべ(朝来市生野町)
7月7日頃～	銀谷の七夕(朝来市生野町)
8月中旬	生野夏物語(朝来市生野町)
8月16日	大杉さんご踊(養父市大屋町)
9月中旬	中瀬金山まつり(養父市中瀬)
9月第4日曜	銀谷祭り(朝来市生野町)
9月下旬	公募展木彫フォークアートおおや(養父市大屋町)
10月第1日曜	あけのべ円電車まつり(養父市大屋町)
10月中旬	生野秋祭り(朝来市生野町)
	但馬食文化まつり(和田山中央文化公園／朝来市和田山町)
10月頃	風と光のページェント(朝来市多々良木)
11月3日	天滝もみじ祭(養父市大屋町)
11月下旬 ～1月上旬	生野イルミネーションロード(朝来市生野町)



鉱石の道 神子畑桜まつり



銀谷祭り



中瀬金山まつり



あけのべ円電車まつり

問い合わせ

朝来市観光協会	079-668-9177
朝来市観光情報センター	079-679-2222
鉱石の道神子畑交流館・神選	079-666-8002
生野銀山	079-679-2010
養父市役所大屋地域局	079-669-0120
養父市立あけのべ自然学校	079-668-0258
養父市役所関宮地域局	079-667-2331

〈発行〉鉱石の道推進協議会

〈制作〉株式会社キャメル

鉱石の道

検索

日本遺産 わだち

検索

〒668-0025 兵庫県豊岡市幸町7-11 兵庫県但馬県民局 地域政策室地域づくり課内 TEL.0796-26-3676

【鉱石の道公式サイト】<http://www.koseki-michi.com/> 【日本遺産「銀の馬車道 鉱石の道」公式サイト】<http://wadachi73.jp/>

